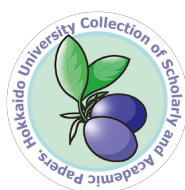




Title	アルチュカ語彙集 : 穆曄駿資料の満洲語文語索引
Author(s)	王, 海波
Citation	北方言語研究, 15, 237-276
Issue Date	2025-03-20
DOI	https://doi.org/10.14943/112980
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/94624
Type	departmental bulletin paper
File Information	13_Wang.pdf



[資料・研究ノート]

アルチュカ語語彙集
— 穆曄駿資料の満洲語文語索引 —

王 海 波
(嶺南師範学院)

キーワード：アルチュカ語、満洲語文語、同源語

1. はじめに

1.1. アルチュカ語の概要

アルチュカ語(阿勒楚喀語)は満洲語系の言語(または満洲語の方言)であり、その使用地域は東は寧古塔西部、西は伯都訥、南は通化・吉林、北は呼蘭・慶安一带にわたる。中心部は現在の阿城一带であった(穆曄駿 1985: 5)。寧古塔、伯都訥、通化、吉林、呼蘭、慶安の中国東北部における位置は右図のようである。アルチュカ語には1964年に60~70歳以上の話者が存在していた(穆曄駿 1985: 5)が、現在では消滅したと考えられている(池上 1992: 402; Hölzl 2020a: 3)。アルチュカ語に関する言語学的調査を行った学者は穆曄駿のみであり、アルチュカ語の語彙を記録した穆曄駿の論文には、穆曄駿(1985; 1986a; 1988b)などがある¹。



図1：アルチュカ語の地理的範囲

1.2. 本稿の意義

穆曄駿の調査データに含まれるアルチュカ語の語彙は、いくつかの論文に散在しており、アルチュカ語を研究する際には、重要な例が見逃されがちである。例えば、池上(1999b[1993])は『漢清文鑑』におけるハングル表記の満洲語文語のCVwV(Cは子音、Vは母音を表す)とアルチュカ語の同源語の音節数の対応を考察する際、hūwa「庭」のアルチュカ語における同源語[hɔwə](穆曄駿 1988b: 15)に言及していない。『漢清文鑑』に記されたハングル表記の満洲語文語のCūwaは847例も存在するが、いずれも1音節である(和田 2013: 253)。一方、穆曄駿が発表したアルチュカ語のデータでは、Cūwaを含む満洲語のアルチュカ語における同源語が3つ記録されており(それぞれgūwa「他の」、hūwa「庭」、saihūwa「いばら」の同源

¹ なお、穆曄駿は満洲語系のバラ語やラリン語に関する言語学的調査も行った。穆曄駿(1987b: 2)によると、バラ語の話者は黒龍江省の双城、五常、阿城、延寿、尚志、方正、木蘭、呼蘭、通河、賓県、巴彦に居住していた(地図はHölzl 2020b: 165を参照)。穆曄駿は1964-1977年にバラ語を調査した(穆曄駿 1987b: 1)が、1982年にバラ語は消滅した(穆曄駿 1985: 5)。ラリン語は黒龍江省の五常県拉林鎮周辺、阿城県料甸子周辺、双城県の大部分の村屯や哈爾濱市郊外に分布した(穆曄駿 1986b: 2)。ラリン語の話者は1744年より北京から移住してきた満洲人である(穆曄駿 1986b: 2)ため、満洲語の北京方言の性格を保持していたが、その後、アルチュカ語からの影響を受けていた(穆曄駿 1987a: 17)。

語)、そのうち *gūwa* と *saihūwa* の同源語では *Cūwa* が 1 音節で、*hūwa* の同源語では *Cūwa* が 2 音節となっている。池上(1999b[1993]: 324)はこの対照的な研究を行う際に、*saihūwa* の同源語には言及しているが、*gūwa* や *hūwa* の同源語には言及していない。特に、*hūwa* の同源語が 2 音節である点は重要であり、この点を見逃すことは研究において大きな影響を及ぼす。

また、穆曄駿の論文には、1 つの語に複数の形式が記録されていることがあり、それぞれが異なる論文に記載されている場合が多い。先行研究では、アルチュカ語を研究する際に、1 つの形式だけを取り上げ、他の形式には触れないことがある。例えば、Hözl(2017: 101)は満洲語文語とアルチュカ語の同源語における語頭子音 *f* と *p'* の対応を考察する際、満洲語文語の *fodoho* 「柳」のアルチュカ語における同源語の *[p'ədohə]* のみを取り上げている。しかし、該当の語は、穆曄駿の論文では *[p'ədohə]* だけでなく、*fət'ə'ə* や *[fədohə]* のような *f* で始まる形式も記録されている。

なぜ上記のように重要な例が見逃されることがあるのかと言えば、前述の通り、穆曄駿が記録した語彙が複数の論文に散在しているためであると考えられる。そこで、本稿では、穆曄駿が記録したアルチュカ語の語彙を、満洲語文語の同源語に基づいて整理することにする。また、満洲語文語に同源語を持たない語の語源についても扱う。

2. 満洲語文語に同源語を持つ語

次表は、穆曄駿が記録したアルチュカ語の語彙を、満洲語文語の同源語に基づいて整理したものである。

- [1] 1 列目は満洲語文語の形式とその和訳である。満洲語文語の語形と意味については、羽田(1937)、田村ほか(1966-1968)、Hauer (2007)、福田(2008)、胡增益(2020)、河内(2021)を参考にした。
- [2] 2 列目はアルチュカ語における同源語の語形と出典である。同源語と考えられる部分の語形は太字で示す。穆曄駿が記録したアルチュカ語の語形は、基本的に IPA か IPA に近い表記がされていると考えられるが、無気の破裂音や破擦音に関しては、無声音記号と有声音記号が混在している。
- [3] 動詞の場合、原則として未完了形を挙げる。ただし、アルチュカ語の同源語の記録に未完了形以外の形式がある場合、満洲語文語の欄に語幹の形式と意味を挙げ、その右側に対応する形式を記載する。
- [4] 「基」、「固」、「非固」は、それぞれいわゆる「基本詞」、「固定音変詞」、「非固定音変詞」の略である。「基本詞」、「固定音変詞」、「非固定音変詞」は穆曄駿の用語であり、詳細は穆曄駿(1986a: 2)を参照されたい。
- [5] 2 列目の出典では、「穆曄駿 19」を省略している。例えば、「(87: 13)」は「(穆曄駿 1987: 13)」を指す。
- [6] 必要に応じて、穆曄駿が記したアルチュカ語の中国語訳を記載する。
- [7] アルチュカ語の「13」、「14」、「17」、「18」、「19」を表す数詞は満洲語文語には同源語がないが、女真語には同源語がある。これらの数詞も次表に入れた。次表にあるこれらの数詞の女真語の形式はイタリック体で記し、前にアスタリスクを付ける。女真語の形式は、『女

真訳語』乙種本の記録に基づき、Kiyose (1977: 133)によって再建された形式である。なお、満洲語文語と女真語の両方に同源語がある場合、女真語の形式は省略する。アルチュカ語の数詞に関する研究には Hölzl (2017)がある。なお、満洲語文語には同源語がないが、女真語には同源語がある語は、これらの数詞だけではない。他の語は 4. 節で扱う。

表 1：満洲語文語とアルチュカ語の同源語

満洲語文語	アルチュカ語
abalambi「巻狩りをする」	[abalamei] (87: 13)
abdaha「葉」	[avdaha] (87: 10)
abišaha dabišaha「よそよそしい」	[aibifagə daibifagə] (88b: 19)
abka「天」	auxa (85: 5, 11) auk'a (86a: 10) [avk'a] (87: 6)
acabu-「合わす」acabuha	aŋ'a'uxa 実現了 (85: 10)
aca-「会う；合う」acaha	kaŋ'axa (86a: 15)
acahabi	aŋ'a'ubi (85: 9)
acambi	kaŋ'amei (86a: 10, 13) kaŋ'ambi (86a: 16) [gaŋ'amei] (87: 11)
acarakū	kaŋ'ara'ɔ (86a: 11)
acinggiyambi「揺する」	[gaŋ'injamei] (88b: 17)
acuhūn「睦み合った」	kaŋ'uxun (86a: 11) ²
adali「同様」	katali (86a: 12)
adaramē「如何に」	katiram (86a: 12)
afabu-「渡す」afabume	ap'a'um (86a: 12)
aga「雨」	axa (85: 6)
agambi「雨が降る」	a'aimei (85: 9) ³
ai「何」	ei (86a: 10, 13, 15)
aidagan「雄の野猪」	[ɛdəgə] (87: 9) ⁴
aimaka「大抵、多分」	[əiməgə], [əimgə] (88b: 4)
aina-「何をする；どうする」	
ainahabi	[gainahanbie] (88b: 17)
ainambi	kainamei (86a: 14)
ainu「なぜ」	einu (86a: 12, 15)

² 穆曄駿(1987: 15)は、満洲語文語の cu はアルチュカ語の [ʃi] または [ʃiu] に対応すると述べている。しかし、穆曄駿が記録したアルチュカ語の語彙には、[ʃiu] を含む語形はない。満洲語文語の cu に対応するアルチュカ語の形式は、dzu~ʃu (nicuhe)、ʃi (alcu, alcuka, cukumbi, gacuha, nimecuke)、ʃu (gusucumbi)、ʃi (uculembi)、ʃə (encu)、ʃ'i (cungguru, pongcun, uculehe, ucun)、ʃ'i (uluncu)、ʃ'u (acuhūn, cuku, cukulembi, hacuhan, nakcu)、t'u (basucun, ucuri)などがある。

³ 原文では、アルチュカ語の a'aimei は満洲語文語の aga agambi に対応するとしている。

⁴ 原文では、満洲語文語の aidagan に対応するバラ語とアルチュカ語の同源語の形式はそれぞれ [aidəhən] と [ɛdəgə]であると記述されており、満洲語の意味は「雄の野猪」で、バラ語の意味は「野猪」(満語為公野猪 巴拉語為野猪)と記述しているが、アルチュカ語の意味については言及していない。

aisin 「金」	enfin (86a: 12) [anfin] (87: 11)
ajige 「小さい」	dzianf'an (85: 7) ⁵
akjan 「雷」	adian (85: 6) [ak'dian] (87: 8)
akū 「ない」	wə (ula'wə 没有牲口) (85: 10) ə'w (86a: 10) a'w (86a: 11, 13, 15, 17) [ak'u] (88b: 15)
ala 「低く平らな山」	ala (85: 14)
alcu 「背式骨の側面の凹み」	aŋi (85: 11, 12, 15)
alcuka 「アルチュカ」	aŋxa 支児 (85: 11, 13, 14) ⁶
aldasi 「半途」	ə'daŋi (85: 15)
ali- 「受ける」 alici	kalit'i (86a: 16)
alikū 「大皿」	[araliku] 盆 (87: 13) ⁷
alimbaharakū 「耐えられない」	alinfaxara'w (86a: 16)
alin 「山」	əlin (85: 6, 11) aŋlin (85: 10; 86a: 11, 14)
ališa- 「悶える」 ališame	alizam (86a: 15)
aliyambi 「待つ」	[aliemei] (87: 12)
ama 「父」	ama (85: 9)
amaga 「後の、後に、将来」	amka (86a: 14)
amala 「後ろ；後」	[amulə] (87: 7)
amargi 「後方；北」	[amaləgi] 北 (87: 12) 後面 (87: 12)
amba 「大きい」	amba (85: 9) anpa (86a: 10)
ambula 「大いに」	anpula (86a: 12) anmula (86a: 16)
amga- 「寝る」 amgaci	amkaŋi (86a: 15)
angga 「口」	aŋ (85: 9)
aniya 「年」	ani (anierŋ 年代) (85: 10)
antaka	kent'aka (86a: 15)
ara- 「作る」 arafi	arp'i (86a: 11)
araki	argi (banijargi 謝謝) (85: 10)
arbun 「姿、様子」	karpun (86a: 10) arpun (86a: 17)
arfa 「烏麦」	ailwə 野大麦 (85: 10)
arga 「方法」	arka (86a: 13)
arki 「焼酎」	agi (85: 9)
atanggi 「いつ」	[ant'anggi] (88b: 18)

⁵ 原文では、アルチュカ語の dzianf'an malu 「小瓶」は満洲語文語の ajige malu に対応すると主張しているが、dzianf'an と ajige が同源語であるか否かは再考する必要があると考えられる。

⁶ 穆曄駿(1985: 11, 14)は「支児」を意味する aŋxa は満洲語文語の alcuka に対応している。しかし、羽田(1937)や胡増益(2020)などの満洲語文語辞書では alcuka は「アルチュカ」の意味しかない。一方、満洲語文語の alcu は「針児」(背式骨の側面の凹み)の意味であり、「支児」と同じ意味であろう。しかし、alcuka の語源は alcu 「針児」ではない可能性がある。

⁷ アルチュカ語の [araliku] と満洲語文語の alikū は同源語である可能性があるが、再考する必要がある。

ayan dengjan 「蠟燭」	[a ^h jan dən] (87: 24) ⁸
ba 「場所；里；(bade)のに」	ba 天 (85: 5) ⁹ pa 処 (86a: 12, 14) 地 (86a: 13) (pa ^h tə 連...都) (86a: 14) 里 (86a: 16) [ba] ([ni ^h oi ba] 水甸子) (87: 8)
baha- 「得る」 bahafi	pa ^h k'ap'i (86a: 15, 16)
baita 「こと」	peit'a (86a: 10) peit' (86a: 10, 11, 12, 16)
balai 「みだりに」	pa ^h lei (86a: 15)
baljun 「妖怪」	bə ^h ldiŋ (85: 7) pa ^h tiŋ (86a: 10) pa ^h tiŋ (86a: 12)
baniha ara- 「感謝する」 baniha araki	ba ^h nijargi (85: 10)
banji- 「生きる」 banjiha	[pa ^h ndi ^h a] 活了 (87: 8)
banuhūn 「怠惰」	[pa ^h nəhu ^h] (87: 6)
baru 「～に向かって；～と」	pa ^h r 和 (86a: 11) 与 (86a: 11)
basucun 「可笑しい」	pa ^h st'un (86a: 10)
baturu 「勇ましい」	pa ^h t'ur (86a: 16)
be 「を」	wə (85: 9, 10; 86a: 9, 10, 12, 13, 15, 16) və (86a: 9, 12) mə (86a: 9, 10 ¹⁰ , 11, 12, 13) m (86a: 12) u (86a: 9, 10, 11, 12) pə (86a: 13) p (86a: 13 ¹¹) b (86a: 13) [pə], [p'ə], [və], [u], [mə], [m], [p] (87: 26)
be 「私たち(排他的)」	wə 咱們 (85: 12)
bebeliye- 「厳寒でこわばる」 bebeliyeke	[bəbuliə ^h ə], [bəbuliəgə] (88b: 7)
bedere- 「戻る」 bederefi	pa ^h trp'i (86a: 13) pa ^h trəp'i (86a: 13)
bederembi	pa ^h tərəmei (86a: 13)
bedun 「丈夫」	[pə ^h t'uŋ] 粗壮 (87: 8)

⁸ dengjan は中国語の「灯盞」からの借用語であるが、ここでは dengjan の jan (盞)に相当する部分は見当たらない。

⁹ 穆曄駿(1985: 5)が記録した ba は「天」の意味であるが、満洲語文語における同源語 ba は「天」の意味はない。池上(1999b[1993]: 334-335)が指摘しているように、ナーナイ語文語の 6oa やウデヘ語の bua は「天」の意味を持ち、ナーナイ語ビキン方言における 6ā は「天」や「場所」を意味する。また、松花江下流の一部のヘジェ語では pa が「天」と「地」を意味する(凌純聲 1934: 273)。Nikolaeva & Tolskaya (2001: 70, 510-511)および Nikolaeva et al. (2002: 11)によれば、ウデヘ語の bua～ba は「場所」、「自然」、「神」を意味し(罵言にも使われることがある)、また「外」や「森で」という意味も持つ。中国のキャッカ語では、「巴那安都里」(ba na an du li)が「天地神」を意味する(穆曄駿・孟慧英 1986: 21)。この「巴」も「天」を指すものと考えられる。穆爾察曄駿・馬文業(1983; 2018)、穆爾察安布隆阿・穆爾察依凌阿(1983)、穆曄駿・孟慧英(1986)が記録した民話・民謡にはキャッカ語の単語が含まれ、穆曄駿(1986a: 4; 1987: 30-31)もキャッカ語に言及している。そのキャッカ語は、Hölzl (2018)と Hölzl & Hölzl (2019)によると、ウデヘ語派(Janhunen 2012: 6の Udegheic 即ち Ikegami 1974による分類の II 群に当たる)に属するロシアのキャッカ語(Russian Kyakala)ではなく、いわゆる中国のキャッカ語(Chinese Kyakala)である。なお、Цинциус и др. (1975: 100)によれば、エウエンキー語、ソロン語などにおける同源語にも「天」の意味はある。

¹⁰ 穆曄駿(1986a: 13)によると、n または ŋ で終わる語に対格標識が付く場合、その対格標識の形式は pə である。しかし、穆曄駿(1986a: 10)にある karpuŋ mə では、対格標識は pə ではない。

¹¹ 穆曄駿(1986a: 12)によると、ə で終わる語に対格標識が付く場合、その対格標識の形式は və または u である。しかし、穆曄駿(1986a: 13)にある t'ərəp では、対格標識は və, u ではない。

behe 「墨」	[bəhə] (87: 22)
beikuwen 「寒い」	piŋwən (86a: 14)
bethe 「足 ; 脚」	[pət'igə] 脚 (87: 18)
beye 「体」	bədʒi 身 (85: 6) pei 自己 (86a: 10, 12, 16) (ɔrkə pei 命) (86a: 12) bei 身 (86a: 14) [bəi] 人 ([na bəi] 本地人) (87: 17) ¹²
bi 「私」	bi (85: 9; 86a: 15) pi (86a: 16, 17)
bi- 「ある、いる」 bi	pi (86a: 10, 11, 14) bi (86a: 13)
bihe	bi'ə (85: 9) pikə (86a: 15, 16)
bilten 「沢」	meit'an 積水淀 (85: 12)
bira 「川」	bielə (85: 6) pira (86a: 10) [pilə] (87: 6)
bithe 「本」	bit'xə (85: 15) [bit'i'ə] (87: 7)
bithesi 「記録係」	bit'əʃi (85: 15)
biya 「月」	[pia] (87: 6)
biyantaha 「頭の上の瘡の痕跡」	bint'ək' (85: 11)
bolgo 「清潔」	pəl'ə (86a: 14)
boo 「家、家屋」	pə (86a: 10, 11) pəw (86a: 15, 16) [bəw] (87: 8, 18)
boro 「夏の帽子」	[bərə] 草帽 (88b: 5)
bosho 「腎臓」	[bəshə] (88b: 5)
boso 「布」	[bu] (87: 22)
buce- 「死ぬ」 bucehe	[pət'ihə] (87: 8)
bucere	puʃ'ir (86a: 14)
bu- 「与える」 buci	put'i (86a: 12)
buhū 「鹿」	puxə (86a: 11)
bujan 「林」	budʒian (85: 6) [p'uʃan] (87: 13)
buju- 「煮る」 buju	[muʃu] (87: 23)
bukta- 「寝違いをする」 buktakabi	[buət'abi] 落枕 (88b: 23)
bulukan 「ぬるい」	[buʃ'uk'an] 温 (87: 13) [put'uhə] 温暖 (87: 18)
burga 「柳の木 ; 柳の枝」	p'ugan (85: 6, 12) [p'ugan] (87: 11)
bušuku 「狐の精」	[buʃihun] 魔鬼、規範語謂狐魅 (87: 17)
buya 「小さい」	bei (85: 9) peija (86a: 11)
buye- 「愛する ; 欲する」 buyeme	beim (85: 10)

¹² 満洲語文語における同源語は beye であるが、beye は主に「体」の意味であり、「人間」の意味はない。アルチュカ語の [na bəi] 「本地人」(当地の人)における [bəi] は「人」の意味である。池上(1999b[1993]: 336)によると、アルチュカ語の bəi はナーナイ語クル・ウルミ方言の ɓəjə 「人間」に一致し、同じこの語はまた松花江下流沿岸のヘジェ語にもある(凌純聲 1934: 206 によると、pei 「人」である)。劉忠波(1981: 1)及び『赫哲族簡史』編写組(1984: 6)によると、松花江流域「富錦県大屯以上」に居住するヘジェ人の自称は「那貝」(na bei)である。また、Цинциус и др. (1975: 122)によると、満洲語文語 beye の多くのツングース語における同源語は「人間」の意味である。なお、穆曄駿(1988a: 20)によると、バラ語の [bəi] も「人」の意味である。

cacari 「布製の四角な天幕」	ʦʰiqʰiling 帳棚 (85: 6) [ʦʰiqʰiling] 帳棚 (88b: 10)
cai 「茶」	[ʦʰia] (87: 22)
cala 「あちらに」	ʦʰal (86a: 11)
camci 「婦人の肌着」	[ʦʰimʦʰi] 襯衣 (88b: 8)
car 「ずきずきひりひり」	tʰiar (86a: 14)
ce 「彼ら、彼女たち」	[ʦʰə] (88b: 3)
cecike 「小鳥」	ʦʰiqʰigə (85: 6) ʦʰitʰixə (85: 10) ʦʰitixə (85: 12) [tʰiqʰigə] (87: 14) [ʦʰiqʰigə] (88b: 3)
cejehen 「船の引綱をつける板」	[ʦʰiqʰiʔən] 緯板 (88b: 6)
ceku 「ぶらんこ」	[ʦʰukʰu] 鞦韆 (87: 10)
ci 「から、より」	ʦʰi (86a: 9, 15) ʦʰi (86a: 9, 15, 16) tʰi (86a: 9, 12, 15, 16, 17, 18 ¹³) [ʦʰi], [ʦʰi], [tʰi] (87: 27)
cihai 「任意に」	tʰixai (86a: 11)
cihe 「虱」	tʰixə (85: 10)
cikten 「幹、茎」	titən (85: 6)
cimari 「明日」	[ʦʰuməli] (88b: 10)
cira 「顔、顔色」	ʦʰiri (85: 10)
cirku 「枕」	tʰirku (85: 10)
cohome 「特に、専ら」	tʰioxəm (86a: 13)
coko 「鶏」	tʰioxo (85: 10) tʰioxə (86a: 8) [tʰioxə] (87: 11) 基 tʰioʔə 固 tiəxə 非固 tiəxə (86a: 9) 基 tiəxə 固 tiəxə 非固 tiəxə (86a: 9) 基 tʰioʔə 固 tʰioxə 非固 tʰioxə (86a: 9)
coko 「鶏」 + umhan 「卵」	tʰioxoma (85: 10)
cola- 「煎る、炒める」 cola	[ʦʰəla] (87: 23)
colhon 「山の峰」	tiolxo (85: 12) [ʦʰəlhun] (87: 13)
cooha 「兵、軍」	ʦʰə-xa (86a: 12, 14)
cuku 「しんこもち」	[ʦʰukʰun] (88b: 21)
cukulembi 「犬をけしかける」	[ʦʰukləmei], [ʦʰuləmei] (88b: 23)
cukumbi 「くたびれる」	ʃigumei (85: 13)
cungguru 「へそ」	[ʦʰiŋguru] (87: 10)
da 「もと」	ta (86a: 13)
daci 「もとから」	taʦʰi (86a: 11) tatʰi (86a: 11)
dagila- 「準備する」 dagilafi	takiləpʰi (86a: 13)
daha- 「従う」 daharakū	daxaraʔə (86a: 13)

¹³ 穆曄駿(1986a: 17)によると、n または ŋ で終わる語に奪格(原文では「由格」)標識が付く場合、その奪格標識の形式は ʃʰi である。しかし、穆曄駿(1986a: 18)にある xalpin tʰi では、奪格標識は ʃʰi ではない。

dahan 「仔馬」 + morin 「馬」	dəməli (85: 11)
dahū 「皮衣」	[dak'ua] 皮襖 (87: 8)
dalgan 「塊」	[dalgaŋ] 塊、菜肉塊 (87: 9)
dalin 「川岸」	təri 海岸之岸 (86a: 18) [dərɪn] 河岸 (87: 8) ¹⁴
damu 「ただ ; かし」	dam (85: 10) tam (86a: 12, 16)
danambi 「掌りにいく」	[dainəmei] 管事 (87: 8)
*darhon 「17」	基 təxəŋ 固 tə'əŋ 非固 təŋ 十七 (86a: 3)
*darhon 「17」 + 「個」を表す要素	基 təxəŋkə 固 tə'əŋkə 非固 təŋə 十七个 (86a: 7)
*darhon 「17」 + -ci 「番目」	基 dəxət'i 固 də'əŋt'i 非固 tə'əŋt'i 第十七 (86a: 5)
*darhon 「17」 + mari 「回」	基 təxəməri 固 təxməri 非固 tə'əməri 十七次 (86a: 6)
*darhon 「17」 + niyalma / nofi 「人」	基 təxənəmə 固 təxənəp'i 非固 təxənə 十七人 (86a: 8)
dasa- 「直す ; 治す」 dasaci	tətsit'i (86a: 13)
dasargan 「処方箋」	[dasargan] ([hət'uri dasargan], [hət'uri dasargan] 偏方) (88b: 3)
dasata- 「整える ; 身繕いする」 dasatahangge	təts'ita'əŋə (86a: 17)
de 「に ; で」	du (85: 9) d (85: 9, 10) də (85: 10; 86a: 14; 88b: 17) tə (86a: 10, 14, 15) nə (86a: 10, 11, 14, 15, 16, 18) t (86a: 13, 14, 15) tu (86a: 14, 15) tə (86a: 15) [də], [du], [d], [nə] (87: 26)
defu 「豆腐」	[dəʃu] (87: 22)
dehe 「釣り針」	dəgə (85: 12)
dehi 「40」	基 təxi 固 təji 非固 tə'i (86a: 3) 基 təxi 固 təxi (86a: 4) 基 təxi 固 təxi 非固 təji (86a: 9)
dehi 「40」 + 「個」を表す要素	基 təxikə 固 k'əjikə 非固 təjiə (86a: 7)
dehi ilan 「43」	基 təxi ilan 固 təxi lan 非固 təjila (86a: 4)
dehi 「40」 + mari 「回」	基 təximəri 固 təjiməri 非固 təiməri (86a: 6)
dehi 「40」 + niyalma / nofi 「人」	基 təxinəmə 固 təxinəp'i 非固 təxinə (86a: 8)
dehici 「40 番目」	基 təxit'i 固 təcit'i 非固 təjit'i (86a: 5)
dembei 「大層」	tənpɪ (86a: 14)
den 「高い」	[dəŋ] (87: 8)
dengjan 「灯」	[dəŋ ʃan] 灯 (87: 24)
derbehun 「湿気を帯びた」	dəlwan (85: 12)
dere 「顔 ; 机」	dər 臉 (85: 6) tər (86a: 9) [dəɾə] 臉、桌子 (87: 7)
dere 「であろう」	tər (86a: 11)

¹⁴ 穆曄駿はアルチュカ語の [dərɪn] と満洲語文語の dalin との語源的関連性について言及している(穆曄駿 1987: 8)が、アルチュカ語の tərɪ の満洲語文語における同源語については言及していない。アルチュカ語の tərɪ と満洲語文語の dalin との語源的関連性は筆者の推測である。

dergi 「上；東」	[diergi] 西 (87: 12) ¹⁵ 上面 (87: 12)
deribu- 「始める」 deribuci	təri'ufi (86a: 10)
deribuhengge	tərwəxəŋə (86a: 14)
deribumbi	təɾəmei (86a: 12)
dobi 「狐」	təpi 狐狸 (86a: 10) [dərpijə] 狐 (87: 7) [dərpi] 狐皮 (87: 11) ¹⁶ [dərbi] 狐 (88b: 19)
dobori 「夜」	pətəri (86a: 15) [dəbəlɪ] (87: 17)
dolo 「中、内」	dol (85: 10) təl (86a: 10) tər (86a: 16)
dolori 「心の中で」	tələri (86a: 11)
domo 「婦人の下着」	[dəmu] (88b: 13)
dondoba 「土蜂」	dunɟuwa (85: 12)
dondon 「蝶々」	dəndəŋ 蛾 (85: 6) [dəndən] 小蝴蝶 (87: 8) [dəndən] 蛾子 (87: 18)
donji- 「聴く」 donjifi	təntip'i (86a: 13)
donjire	dondir (85: 10) [dəndirə] (87: 11)
doo- 「川を渡る」 doofi	tə-p'i (86a: 10)
dorakūla- 「無礼に振舞う」	
dorakūlafi	tərək'ulawi (86a: 10)
dorakūlambi	təɾə'ɔlamei (86a: 15)
dorgi 「内側」	təki (86a: 10)
doro 「道理；礼」	tər (86a: 13) tərə (86a: 16)
dosimbu- 「入れる」 dosimbume	təzɳ'um (86a: 10)
dube 「尖端」	tuvə (86a: 9)
duibule- 「比較する」 duibuleci	tui'uləŋfi (86a: 13)
duici 「4 番目」	基 tuit'i 固 tit'i (86a: 5)
duin 「4」	基 tui'e 固 tui 非固 ti (86a: 3)
duin 「4」 + 「個」を表す要素	基 tuikə 固 tikə 非固 ti'ə (86a: 7)
duin 「4」 + mari 「回」	基 tuiməri 固 timəri (86a: 6)

¹⁵ 満洲語文語の dergi 「東」と wargi 「西」のアルチュカ語における同源語は意味が逆である。また、筆者が調査した満洲語三家子方言と満洲語黒河方言およびシベ語における同源語の意味も逆である。趙杰(1989: 90, 119)の記録によると、満洲語泰来方言における同源語の意味も逆である。風間(1997b: 117)によると、「ナーナイ語で「東」を意味していた「前」と同源の語が「南」を示しているが、そのみならず「北」は「後ろ」、「西」は「右」、と一貫している。これはおそらくモンゴル語からの影響であろう。モンゴル語では「東」と「左」、「西」と「右」、「南」と「前」、「北」と「後ろ」は同じ語で示される」。満洲語文語とシベ語の「東」と「西」が逆である原因について、李基文(1973: 110)はシベ人が中国の東に位置する満洲地方から、西に位置する新疆へ移住したことによると推測している。しかし、この見解が妥当ではないと考えられる。なぜなら、満洲語の三家子方言・泰来方言・黒河方言及びアルチュカ語の話者が新疆に移住していないにもかかわらず、この点においてシベ語と一致しているからである。「東」と「西」が逆である原因については、恩和巴図(1995: 17)、長山・熊南京(2010: 30)、戈思明(2019: 156-182)などの意見を参照されたい。

¹⁶ 原文ではアルチュカ語の [dərpi] 「狐皮」は満洲語文語の dobihi 「狐皮」に対応すると記述している。[dərpi] には dobihi の hi に当たる要素がないため、ここでは dobi 「狐」の同源語のところに置いた。

duin 「4」 + niyalma / nofi 「人」	基 tuinəmə 固 tuinəp'i 非固 tuinə (86a: 8)
dunda-kū ¹⁷	[dɔndaku] 猪槽子 (87: 13)
dundan 「豚の餌」	[dɔndan] (87: 13)
dungga 「西瓜」	[duŋa] (87: 22)
*durhon 「14」	基 tuxu 固 tux 非固 tu'u 十四 (86a: 3)
*durhon 「14」 + 「個」を表す要素	基 tuxukə 固 tu'ukə 非固 tu'ə 十四个 (86a: 7)
*durhon 「14」 + -ci 「番目」	基 tuxut'i 固 tuxt'i 非固 tu'ut'i 第十四 (86a: 5)
*durhon 「14」 + mari 「回」	基 tuxuməri 固 tu'uməri 非固 tuməri 十四次 (86a: 6)
*durhon 「14」 + niyalma / nofi 「人」	基 tuxunəmə 固 tuxunəp'i 非固 tuxunə 十四人 (86a: 8)
duri 「揺り籠を兼ねた乳母車」	[duliŋ] (87: 8)
dursun 「姿」	tuərsun (86a: 17)
ebi- 「飽食する」 ebire	ubil (85: 7)
ebsi 「より以来」	kə'uzi (86a: 16)
edun 「風」	ɔduŋ (85: 6) oɔduŋ (85: 11) [ɔɔduŋ] (88b: 11)
efen 「饅頭(食物の名)」	əwəŋ (t'uxəwəŋ 鍋餅) (85: 10) (tuməwəŋ 打糕) (85: 12) əfuŋ (feiŋigəfuŋ 粘米面饅頭) (85: 12) [əp'ə] 饅頭 (87: 22)
efi- 「遊ぶ」 efire	əp'ir (86a: 12)
eigen 「夫」	eikə (86a: 15, 16)
ejen 「主」	[əŋjin] (88b: 11) ¹⁸
ekcin 「河に面した岸、河べりの崖」	oŋ'i (85: 10)
ekcin 「醜い鬼」	ot'in (85: 11)
ekše- 「忙しい」 ekšere + erin 「時」	[əŋəri] ([ɔmŋ'i əŋəri] 大忙季節) (88a: 18)
elen 「充分」	[gələ] (88b: 17)
elheše- 「のろのろする」 elhešeci	kəlxəzəŋi (86a: 16)
elmin 「未調教の仔馬」	olimi 大馬駒 (85: 10)
eme 「母」 + nekcu 「母の兄弟の妻」	əməŋ'u 舅母 (85: 8) ¹⁹
emgi 「一緒に」	əmki (86a: 10, 15, 16)
emhe 「妻の母」 / emeke 「夫の母」	əmxa, ɔmgə 婆婆与岳母不分 (85: 8)
emu 「1」	基 əm 固 əm (86a: 3) ɔm (86a: 10, 13, 14, 15, 17)

¹⁷ 原文ではアルチュカ語の [dɔndaku] 「豚の餌桶」は満洲語文語の suraku (surakū の誤植か)に対応すると主張している。これは意味的な対応であり、同源語ではないと考えられる。アルチュカ語の [dɔnda] と [ku] はそれぞれ満洲語文語の dunda- 「豚に餌をやる」と -ku/-kū 「派生接辞」と同源であると考えられる。しかし、dundakū という語形は羽田(1937)や福田(2008)などの満洲語文語辞典には見られない。

¹⁸ 原文では北方満洲語とヘジェン語での発音は [əŋjin] と述べているが、ここの「北方満洲語」にはアルチュカ語が含まれているかは明かにしていない。

¹⁹ 原文ではアルチュカ語の əməŋ'u 「母の兄弟の妻」と満洲語文語の nekcu とが意味が同じであると記述しているが、əməŋ'u の由来については言及していない。əməŋ'u における əmə は満洲語文語の eme 「母」と同源である可能性があり、ŋ'u は nakcu / nekcu の cu と同源である可能性がある。

emu 「1」 + 「個」を表す要素	基 <i>ə mukə</i> 固 <i>ə mkə</i> 非固 <i>ə ŋkə</i> (86a: 6)
emu 「1」 + mari 「回」	基 <i>ə muməri</i> 固 <i>eməri</i> (86a: 6)
emu 「1」 + niyalma / nofi 「人」 ²⁰	基 <i>ə mnəmə</i> 固 <i>ə mnəp'i</i> 非固 <i>ə mnə</i> (86a: 8) <i>ə m nəmə</i> (86a: 15)
encu 「別の」	<i>[gəntʃ'ə]</i> (88b: 17)
enduri 「神」	<i>ənduri</i> (85: 7) <i>ənturi</i> (86a: 14)
enduri 「神仙」	<i>ənduliŋ</i> (85: 7)
enenggi 「今日」	<i>əniŋi</i> (86a: 15, 16)
enji 「精進料理」	<i>[undi]</i> 素、即葷素之素 (88b: 11)
enteheme 「永えに；永えの」	<i>kənt'xəm</i> (86a: 16)
erdemu 「才；徳」	<i>kərdəm</i> 才勢 (86a: 15)
ere 「これ；この」	<i>ər</i> (85: 10) <i>ərə</i> (86a: 10) <i>kər</i> (86a: 10, 11, 12, 15) <i>kərə</i> (86a: 11) <i>gər</i> (86a: 17)
ere- 「望む」 ereme	<i>kərəm</i> (86a: 12)
ergen 「息；命」	<i>ərəkə</i> (<i>ərəkə pei</i> 命) (86a: 12)
erin 「時」	<i>eriŋ</i> (<i>anieriŋ</i> 年代) (85: 10) <i>[əri]</i> (<i>[əmʃi əʃəri]</i> 大忙季節) (88a: 18)
esihe 「鱗」	<i>[əʃigə]</i> (87: 10) <i>[əʃi]</i> (87: 13)
ešemeliyen 「若干斜め」	<i>[əʃimili]</i> (88b: 24)
etuku 「服」	<i>[t'uk'uə]</i> (87: 12)
eyere ²¹	<i>ujire</i> 低 (85: 10) <i>ujer</i> 低 (85: 11)
fa- 「潤れる」 faha	<i>wak'</i> 干涸 (85: 11)
faha 「目玉；果実の核」	<i>waxə</i> 円珠 (85: 8)
fakca- 「離れる」 fakcafi	<i>p'ak't'ap'i</i> (86a: 15)
fakcaha	<i>p'ak't'iaxa</i> (86a: 16)
faksi 「巧み」	<i>p'ak'z'i</i> (86a: 13)
fali 「個」	<i>wəli</i> 个数 (85: 8)
fangkala 「低い」	<i>[fəŋgə]</i> (87: 13)
fara 「積雪のうえを牛が引いて草木を運ぶ櫓ごときもの」	<i>pələ</i> 耙犁 (85: 7) <i>[p'alia]</i> 雪橇、車轅 (87: 9) 爬犁 (87: 12)
fasilan 「岐れている枝や道」	<i>feifil</i> 樹叉子 (85: 11)

²⁰ 満洲語文語の *nofi* は普通、2 名以上の人を指す場合に用いられる(Norman 2013: 291)。『大清全書』では「一個人兩個人之個字」と説明しているが、「一個人」の場合は *wesihun nofi* などの場合である(Alonso de la Fuente 2017: 58)。一方、アルチュカ語の *əmnəp'i* (86a: 15) の *ə m* と *nəp'i* はそれぞれ満洲語文語の *emu* と *nofi* の同源語である可能性がある。

²¹ 原文ではアルチュカ語の *[ujire]*, *[ujer]* 「低い」は満洲語文語の *eyere* に対応すると主張しているが、満洲語文語のこの *eyere* の意味に言及していない。この *eyere* は動詞語幹 *eye-* 「流れる；秤竿の先が下がる」に未完了連体接辞 *-re* がつく形式である可能性がある。「秤竿の先が下がる」という意味から「低い」という意味が生まれたと推測される。

faššambi「勉める」	fazamei (85: 12)
fatha「獣の蹄」	[p'atigə] (87: 18)
fe「古い」	[fəi] (87: 7)
fefe「陰門」	bawə (85: 12)
fejergi「下」	futfirki (86a: 10) p'utfilki (86a: 14) [fətfiergi] (87: 12)
fengseku「素焼きの小さな平たい鉢」	fəŋsəkə, fəskə 盆子 (85: 11)
fergi-ku	p'ərki'ə 火辣辣 (86a: 14) ²²
feshembi「悶え苦しむ、悩む」	[fəshə(ə)məi] 苦惱 (88b: 3)
fesin「柄」	feifi (85: 11)
feye「傷」	[futfi], [futfiŋə] 傷 (88b: 12)
fi「筆」	fi (86a: 9) [p'i] (87: 22)
fisihe「稷」+ efen「餠餅」	feifiŋəfuŋ 粘米面餠餅 (85: 12)
fiyana「背負子」	[fijana] 背架子 (87: 8)
fodoho「枝垂れ柳」	fət'ə'ə 柳樹 (86a: 14) [p'ədəhə] 柳樹 (87: 10) [fədəhə] 柳樹 (88b: 5)
fondo「貫通した」	[fundə] (88b: 5)
fucihi「仏」	fut'icin (85: 7, 10) [fut'ihin] (87: 12)
fucihyalaha「炙った」+ yali「肉」	[p'uk'ijali] 夏季狩猟時代的食物、火燎肉 (87: 18) ²³
fucihiyambi「咳をする」	[p'ut'ia mei] (87: 9)
fudenji-「送ってくる」 fudenjihe	p'utəntfikə (86a: 13)
fuktala「蕨」	[p'ut'ala] (87: 13)
fulgiyan「赤い」	fuliaŋ (85: 7)
fulha「白楊」	ulgə (85: 6) [fulgə], [ulgə] (88b: 10)
fuli「乾し肉」	[p'əili] 碎干肉塊 (87: 7)
fulu「優れた」	p'ulu (86a: 12) p'ul (86a: 16)
fungkū「丸太」	[fuŋgu] 墩子 (87: 7)
funiyehe「髪；毛」	[p'iniəgə] 髪 (87: 11)
funiyehe「髪；毛」+ megu「菌の一種」	[finijege məgu] 猴頭磨菇 (87: 24) ²⁴
furun「削り取った肉」	[p'ulun] 糸、菜肉糸 (87: 9)

²² 原文ではアルチュカ語の p'ərki'ə ninpi「ひりひり痛む」は満洲語文語の fergikū nimembi に対応すると主張しているが、fergikū という語形は羽田(1937)や福田(2008)などの満洲語文語辞典には見られない。満洲語文語の fergi-「毒虫に刺される」に -ku/-kū「派生接辞」がついた形式である可能性がある(但し、母音調和を考慮に入れるなら、fergikū より fergiku の方が合理的であろう)。

²³ 原文では満洲語文語における同源語に言及していない。満洲語文語の fucihyala-「(毛を)あぶる」+ yali「肉」との語源的関連性は筆者の推測である。

²⁴ 原文ではアルチュカ語の [finijege məgu] は満洲語文語の muheren sence に対応すると主張しているが、同源語ではないと考えられる。[finijege] は満洲語文語の funiyehe「髪；毛」の同源語であろう。

fusihūlambi 「軽蔑する」	fucixulamei (86a: 11)
futa 「縄」	[fut'ə] (87: 6)
futa 「縄」 + bira 「川」	fut'ami 細条河 (85: 12)
gabula 「食い意地の張った」	k'owol 饑 (85: 12)
gacuha 「羊等の小脛骨の下に突き出た丸い骨で製作した戯具」	gafixa 背式骨 (85: 12)
gaha 「鳥」	gaxa (85: 14)
gai- 「とる」 gaici	kat'i (86a: 15)
gaimbi	gamei (85: 7) keimei (86a: 16)
gaijara- 「受け取る」 gaijarakū	katfjara'ə (86a: 12)
gaijarangge	kaitfjaraŋ'ə (86a: 10) keitfjaraŋə (86a: 16)
gaisilan 「巻き添え」	[ganʃil] (88b: 24)
gajimbi 「持ってくる」	[gaʃimeɪ] (88b: 17) [ganʃimeɪ] (88b: 19)
gala 「手」	[ŋal] (87: 8)
galman 「蚊」	[ganman] 蚊子 (87: 8)
gama- 「持っていく」 gamaha	k'am'a (86a: 14)
gamambi	gaməmei (85: 7)
gamarakū	gamalwə (85: 9)
gasha 「鳥」	gasa 鳥 (85: 6)
gašan 「村」	gazə 村子 (85: 15)
gebu 「名」	əwə (86a: 14) [gəbu] (87: 14) [gərbi] (88b: 16, 19)
gecembi 「凍る」	gəʃimeɪ (85: 6)
gefehe 「蝶」	kə'ui 蝶 (85: 6) kə'wəi 蝴蝶 (85: 9) [gəuʋik'ə] 蝴蝶 (87: 9) [k'əwəi] 大蝴蝶 (87: 18)
gele- 「恐れる」 gelembi	kələnpi (86a: 14) ələmei (86a: 16)
gelerakū	ələra'ə (86a: 14)
gelhun akū 「敢えてする」	əl'un ə'ə (86a: 10) əl'ən ə'ə (86a: 11) əlxun ə'ə (86a: 13)
gemu 「皆」	kəm (86a: 15, 16)
gene- 「行く」 geneʃi	ənəp'i (86a: 15)
genembi	ənəmei (86a: 15) ənəmpi (86a: 15)
genere	ənər (86a: 15)
genggiyen 「清い、明るい」	kiŋjen (86a: 14)
geo 「雌(の馬)」 + morin 「馬」	[k'uo məriŋ] (87: 22)
geren 「皆 ; 多い」	kər (86a: 10) ərən (86a: 11) kərə (86a: 17)
geri 「伝染病、流行病」	[gəliŋ] (87: 12)
giltaršambi 「きらきらと輝く」	[gint'ufimeɪ] (87: 17)
giogin 「掌」	[giuʃiu] (87: 6)

giranggi 「骨」	[giraŋji] (87: 17)
girimbi 「切り揃える」	[gilimeɪ] 割草 (87: 7)
gisun 「言葉」	kitsun (86a: 13) [gitsin] (87: 13) [gisun] (ulan gisun 伝説) (87: 13)
giyan 「道理」	kijan (86a: 10)
giyangdu 「ささげ」	[tʃaŋdu] (87: 22)
giyarimbi 「巡察する」	[gialimeɪ] (87: 7)
goi- 「当たる」 goici	kəitʃi (86a: 14)
gorgin moo 「きはだ」	[gəŋgi mɔɔ] (88b: 9)
*gorhon 「13」	基 kəxɔ 固 kə'ɔ 非固 kə 十三 (86a: 3)
*gorhon 「13」 + 「個」を表す要素	基 kəxəkə 固 kəxkə 非固 kə'əkə 十三个 (86a: 7)
*gorhon 「13」 + -ci 「番目」	基 kəxət'i 固 kəkət'i 非固 kə'ət'i 第十三 (86a: 5)
*gorhon 「13」 + mari 「回」	基 kəxəməri 固 kəxməri 非固 kəməri 十三次 (86a: 6)
*gorhon 「13」 + niyalma / nofi 「人」	基 əxənəmə 固 kəxənəp'i 非固 kəxənə 十三人 (86a: 8)
goro 「遠い」	kəɔ (86a: 18)
gurgu 「獣」	[gugu] (87: 13)
gurun 「国」	kurə (86a: 10) kurun (86a: 12) kurun (86a: 13) [gurun] (87: 22)
gusucumbi 「煩悶する」	[gustʃ'umeɪ], [gustumeɪ] (88b: 22)
guwafu 「杖」	[guəfu] (88b: 5)
gūlha 「靴」	olax 靴 (85: 8)
gūni- 「思う」 gūnici	kunit'i (86a: 16)
gūnihabi	kənixa'ɔ (86a: 16)
gūnimbi	kənimi (86a: 10) kənimeɪ (86a: 11)
gūnire	kənir (86a: 13)
gūnin 「考え；意向」	gəniŋ (85: 10) kunin (86a: 11) kəni (86a: 17)
gūran 「雄の鬣」	gulaŋ (85: 12)
gūsici 「30 番目」	基 kəʃit'i 固 kəʃit'i (86a: 5)
gūsin 「30」	基 kəʃi 固 kəʃi 非固 ʃi (86a: 3)
gūsin 「30」 + 「個」を表す要素	基 kəʃikə 固 kəʃikə 非固 kəʃə (86a: 7)
gūsin juwe 「32」	基 kəʃi tʃuə 固 kəʃi tʃə (86a: 4)
gūsin 「30」 + mari 「回」	基 kəʃiməri 固 kəʃiməri 非固 ʃiməri (86a: 6)
gūsin 「30」 + niyalma / nofi 「人」	基 kəʃinəmə 固 kəʃinəp'i 非固 kəʃinə (86a: 8)
gūwa 「別の；他人」	kua (86a: 13)
hacin 「件、項、種」	xati 件 (85: 9, 15) (dʒiak xati 物件) (85: 12) [hat'in], [hutʃ'in], [hak'in] 物件 (88a: 10) ²⁵

²⁵ 原文の記述は「如 [hat'in] “物件”，巴拉語对这个詞的發音是 [hat'in]，這同阿勒楚喀一樣，也有時把它說

hacuhan 「小さな鍋」	xanɬʷuŋ 小鍋 (85: 7) [hanɬʷuŋ] 獵鍋、小鍋 (87: 10) [hanɬʷu] 鍋 ([lak'ia hanɬʷu] 吊鍋) (87: 10)
hada 「峰」	xada (85: 15)
hafan 「官吏」	xawə (85: 7, 12)
haga 「魚の骨」	k'ak'a (85: 11)
haha jui 「男の子」	xakɬi (86a: 15) xakɬi (86a: 16)
hailan 「榆の木」	xailin 榆 (85: 14) xialin 樹 (fət'ə'ə xialin 柳樹) (86a: 14) [hailin] 榆 (87: 10) 榆樹 (88b: 8)
hailun 「獺；獺の皮」	[hairuji] 水獺 (87: 13)
hala 「姓」	kala (85: 11) [k'ala] (87: 6)
halfiyan 「扁平」	xalpin 哈爾菲 (86a: 18) ²⁶ halbin ([halbin tɔi] 扁豆) (87: 23)
halhūkan 「やや熱い、やや暑い」	[hailihuək'an] 略熱 (88b: 21)
halhūn 「熱い、暑い」	xalwən (85: 13) [hal'un] (87: 10)
hami- 「殆ど足りる；耐えられる」	
hamimbi	[haimimej] 将夠、差不多 (88b: 19)
hamirakū	[həmirak'u] 受不了、受不得 (88b: 8)
hamu 「大便」	[huəmu] 人糞便 (87: 9) [həmu] 人糞 (88b: 8)
hangsi 「清明節」	[hanɬi] (87: 22)
hardakū 「鯉」	xəldawə (85: 15)
hasi 「茄子」	haidʒi (85: 10) [hæi] (87: 23)
hasima 「一種の蝦夷赤蛙」 ²⁷	xafima 紅肚蛙 (85: 13)
hebeše- 「相談する」 hebešeki	xə'uzəki (86a: 10)
hendu- 「言う」 hendume	əntum (86a: 10)
hengke 「瓜」	[həŋ'ə] ([duaili həŋ'ə] 黃瓜) (87: 18)
heolede- 「怠る」 heoledeme	xəltəm (86a: 11)
hergen 「字」	[hərgən] (87: 7)
hetembi 「捲る、畳む」	[hət'an'mei] 捲、畳 (88b: 20)
heturi dasargan 「民間の処方」	[hət'uri dasargan], [hət'uri dasargan] (88b: 3)
hiyan 「線香」	[hiəŋ] (87: 22)
hiyase 「箱」	[hiasə] 斗子 (87: 22)
hojihon 「婿」	xodiwən (85: 14)
hono 「さえ」	kənə (86a: 12) xənə (86a: 14)

成 [huɬ'in], 或者是 [hak'in]」である。しかし、どの部分までアルチュカ語と同様であるか([hat'in] のみか、それとも、[hat'in], [huɬ'in], [hak'in] を全て含めているか)は明らかにしていない。

²⁶ 原文では地名の **xalpin** を「哈爾菲」と訳しているが、「哈爾濱」をさす可能性がある。また、原文では **xalpin** は満洲語の **halfiyan** に対応すると主張している。地名の「哈爾濱」の語源に関しては、黄錫惠(2010)も満洲語の **halfiyan** に由来すると主張している。

²⁷ 胡増益(2020: 631)は **hasima** を「哈什蟆」、「哈士蟆」、「中国林蛙」と訳している。

hoošan 「紙」	xuazaŋ (85: 11) xuaza (85: 12)
horho 「豚小屋」	xərxə 圈 (86a: 16)
horin 「鳥籠」	oliŋ (85: 10)
horo 「鰻」 ²⁸	xər 黒魚 (86a: 11)
hoseri 「小箱」	[huɔtsə] (87: 22) ²⁹
hošonggo 「方形の」	[hufəŋə] (88b: 15)
hoto 「瓢箪」	[hərtʰə] (87: 22)
hunio 「水桶」	xuniu 水罐子 (85: 7)
hutu 「鬼」	gutu (85: 7) [hutʰuŋ] (87: 9)
huweki 「肥沃」	[həʰuəkʰi] (88b: 4)
hūda 「価格」	[həda] (88b: 13)
hūdula- 「急ぐ」 hūdulame	xətulam (86a: 17)
hūdun 「速い」	xuduŋ (85: 12)
hūsihan 「スカート」	[huɔʃi] (87: 11)
hūsun 「力」	[hutsʰun] (87: 7)
hūwa 「庭」	[həwə] (88b: 15)
i / ni 「の ; (道具や手段)で」	i (86a: 9, 10, 11, 12, 14, 16) kʰi (86a: 9) ni (86a: 9, 10, 11, 12, 13, 14, 16 ³⁰) ki (86a: 9, 10) ŋi (86a: 11) [i], [kʰi], [gi], [ni] (87: 25)
ibagan 「妖怪」	[ivəhan] (87: 18) [ibəʰan] (88b: 12)
ibte 「中の腐った木の瘤」	[əibtʰəi] (88b: 12)
ibtene- 「朽ちる」 ibtenehe	[əbtʰənəgə] (88b: 12)
icakū 「気に入らない」	[iʃʰiakū] (87: 7)
ice 「新しい」	[iʃi] (87: 7)
ici 「右 ; 方向」	[iʃʰie] 右 (87: 12)
ikūmbi 「縮む」	[ikʰuəmei] (87: 7)
ilaci 「3 番目」	基 ilatʰi 固 irtʰi (86a: 5)
ilan 「3」	基 ilan 固 ila (86a: 3) 基 ilan 固 ilan 非固 ila (86a: 9)
ilan 「3」 + 「個」を表す要素	基 ilakə 固 ilaʰə (86a: 6)
ilan 「3」 + mari 「回」	基 ilaməri 固 ilaʰəri (86a: 6)
ilan 「3」 + niyalma / nofi 「人」	基 ilanəmə 固 ilanəpʰi 非固 ilanə (86a: 8)
ilimbi 「立つ」	ilime (85: 7)

²⁸ 『五体清文鑑』では「黒魚」と訳しているが、羽田(1937: 212)や胡増益(2020: 675)は horo 「黒魚」は「鰻」とであると説明している。

²⁹ 満洲語文語の hoseri は漢語からの借用語に派生接辞 -ri がつく形式であるが、アルチュカ語の [huɔtsə] はその派生接辞がない。

³⁰ 穆曄駿(1986a: 10)によると、ə で終わる語に属格標識が付く場合、その属格標識の形式は i または ki である。しかし、穆曄駿(1986a: 16)にある tʰə ni では属格標識は i, ki ではない。

indahūn 「犬」	indaho (85: 6)
inenggi 「日」	iniŋ (86a: 14) [iniŋi] (88b: 17)
ini 「彼の、彼女の」	in'ni (86a: 12, 13, 16)
injem- 「笑う」 injeme	inŋim (86a: 11)
isina- 「到る」 isinaha	iŋinaka (86a: 14)
isinahale ³¹	iŋinaxa əl (86a: 12)
jabšan de 「幸いにも」	ŋia'uzi nə (86a: 15)
jabu- 「答える」 jabuci	ŋia'ut'i (86a: 17)
jahari 「小石」	[dihali] (87: 9)
jahūdai 「船」	dziaxudi (85: 7)
jai 「2 番目；また」	ŋai (86a: 4) 基 ŋai 固 ŋie 非固 ŋi (86a: 5) ŋai (86a: 10) ŋei (86a: 17)
jaka 「物」	dziak (dziak xati 物件) (85: 12) ŋiak' (ulin ŋiak' 財物) (86a: 12) [ŋiak'a] 物件 (87: 11)
jakdan 「松」	dziadan 松 (85: 6)
jakūci 「8 番目」	基 ŋiak'ut'i 固 ŋiak't'i 非固 ŋia'ət'i (86a: 5)
jakūn 「8」	基 ŋiak'uŋ 固 ŋiak'u 非固 ŋiak' (86a: 3)
jakūn 「8」 + 「個」 を表す要素	基 ŋiak'uŋkə 固 ŋiak'ukə 非固 ŋia'ukə (86a: 7)
jakūn 「8」 + mari 「回」	基 ŋiak'uŋməri 固 ŋiak'uməri 非固 ŋia'uməri (86a: 6)
jakūn 「8」 + niyalma / nofi 「人」	基 ŋiak'unəmə 固 ŋiak'nəp'i 非固 ŋia'unə (86a: 8)
jakūnju 「80」	基 ŋiak'unŋu 固 ŋiak'ŋu 非固 ŋia'unŋu (86a: 3)
jakūnju 「80」 + 「個」 を表す要素	基 ŋiakundzugə 固 ŋiak'uŋukə 非固 ŋiak'ŋu'a (86a: 7)
jakūnju 「80」 + mari 「回」	基 ŋiak'uŋuməri 固 ŋiak'ŋuməri 非固 ŋiaŋŋuməri (86a: 6)
jakūnju nadan 「87」	基 ŋiak'uŋu natan 固 ŋiak'ŋu nana 非固 ŋiaŋŋu nana (86a: 4)
jakūnju 「80」 + niyalma / nofi 「人」	基 ŋiak'uŋunəmə 固 ŋiak'ŋunəp'i 非固 ŋiaŋŋunə (86a: 8)
jakūnjuci 「80 番目」	基 ŋiakufut'i 固 ŋiak'ŋut'i 非固 ŋiaŋŋut'i (86a: 5)
jalın 「ため」	ŋialiŋ (86a: 10, 13)
janambi 「薩満が紙送りして病人のために祈りに行く」	[ŋianan'mei] 薩満送紙祈祷時嘴里嘟哝着祝詞 (88b: 19)
jasigan 「手紙」	dzaŋi'aŋ (85: 14)
je- 「食べる」 jeke	[ŋək'ai] (88b: 11) ³²

³¹ 原文の記録は iŋinaxa əl pa... 「所到之处…」であり、対応する満洲語文語は isinaha ele ba... であると記述している。この isinaha ele は isinahale の形式もある(Gabelentz 1864: 203-205; 竹越 2022: 13)。

³² シベ語の /jekei/ における i はモダリティ接語である(児倉 2018: 17)。一方、アルチュカ語の [ŋək'ai] の i は、穆曄駿(1988b: 11)によると、音変化で挿入した発音である(すなわち、単独の形態素ではない)。

jembī	dʒĩmei (85: 7)
je-「耐える」jempi	tʃənp'i (86a: 12)
jecen「境界」	tuəʃ'an (86a: 14) [tʃəʃ'an] (88b: 3)
jekšun「毒舌」	[tʃufun] (88b: 7)
jeku「穀物、糧食」	[tʃək'u] (88b: 3)
jergi「等級」	tʃirki (86a: 17)
jerkin「眩しい光」	[tʃərk'an] (87: 10)
jibehun「掛け布団」	[divhun] (87: 11)
ji-「来る」jihengge	tiŋə (86a: 11)
jimbi	[dimeɪ] (87: 12)
jio	[diʒu] (87: 12)
jili「鹿等の角の根」	təri, tərɪn, tiri 首、頭、第一 (86a: 4) 基 tərɪn 固 təri 非固 tiri 第一 (86a: 5) [dəliŋ] 野獣頭 (87: 18) ³³
jisiha「榛」	[diʃiha] 榛柴柯子 (87: 12)
joksi「木を挾って作った器」	[duk'ʃi] 水瓢 (87: 18)
joli「策」	dioli (85: 11)
jolo「雌の鹿」	dioliŋ (85: 10)
jorgon「12月の12」	基 tirgən 固 tiən 非固 tiō 十二 (86a: 3)
jorgon「12月の12」+「個」を表す要素	基 tirəŋkə 固 tiəŋkə 非固 tiəŋə 十二個 (86a: 7)
jorgon「12月の12」+ -ci「番目」	基 tirkənt'i 固 tikənt'i 非固 tiənt'i 第十二 (86a: 5)
jorgon「12月の12」+ mari「回」	基 tiər'əməri 固 tiənəməri 非固 tiəməri 十二次 (86a: 6)
jorgon「12月の12」+ niyalma / nofi「人」	基 tiərənəmə 固 tiərənəp'i 非固 tiərənə 十二人 (86a: 8)
juben「古事を語る詞」	[dupən] 故事 (87: 12)
jube-le-mbi ³⁴	[dupələmei] 講故事 (87: 12)
juciba「蚩」	[duʃ'iba] (87: 9) [tʃət'iba] (88b: 4)
jufeliyen「旅用の糲」	[tʃəfulin] (88b: 14)

³³ アルチュカ語の *təri, tərɪn, tiri* と [dəliŋ] は、エウエン語とネギダル語の *dil*「頭」、エウエンキ語とソロン語の *dil*「頭」、ウデヘ語とオロチ語の *dili*「頭」、ナーナイ語とウイльта語の *jili*「頭」、オルチャの *dılı*「頭」と同源であると考えられる(エウエン語などの語形は池上 1989a: 1075 による)。「頭」を意味するこれらの語の満洲語文語における同源語は、Benzing (1956: 980)、池上(1989a: 1075)、風間(1997a: 13-14)などは *jili*「鹿などの角の根」を挙げている。Цинцис и др. (1975: 205-206)は満洲語における同源語に *jili* の他に *gili* も上げているが、Alonso de la Fuente (2010/2011: 208)は満洲語の *gili* はエウエンキ語の *gildii*「指輪」、*gildiikään*「円；丸いもの」と語源的に関連しているとしている。なお、穆曄駿(1986a: 4)によれば、アルチュカ語の *tərɪn* はヘジェン語とキャッカ語の同源語と同音であり、キャッカ語の *tərɪn* は *k'anta tərɪn*「石人頭」と *saŋkə tərɪn*「黒熊頭」の例がある。なお、バラ語の [dilin], [dili]「頭」(穆曄駿 1987: 5, 31)と [dərɪn]「野獣の頭」(穆曄駿 1987: 18)も同源語と考えられる。

³⁴ 原文ではアルチュカ語の [dupələmei]「物語をする」は満洲語文語の *julen arambi* に対応すると主張している。アルチュカ語の [dupələmei] の語幹 [dupələ-] は [dupən]「物語」に派生接辞 [-lə] がつくことで形成されていると考えられ、[dupən] と [-lə] はそれぞれ満洲語文語の *juben* と *-le* と同源であると考えられる。

jugūn 「道」	dzu'un (85: 9)
juhe 「氷」	ʃuxuə (85: 7)
jui 「子供」	dʒi (ts'aga dʒi 姑娘) (85: 9) (beidʒi 小孩子) (85: 9) ʃi (xakʃi 男人) (86a: 15) (xakaʃi 男) (86a: 16) (ts'akaʃi 姑娘) (86a: 17) ʃʒi (ts'akʃʒi 女) (86a: 16)
juken sain 「どうやら良い」	[ʃaŋk'a ts'ai] 恰好 (87: 10)
julergi 「前；南」	[duələ] 前面 (87: 9) [ʃuləgi] 南 (87: 12) 前面 (87: 12)
julge 「古」	ʃul'a (86a: 16)
julgen sain 「首尾の良い」 + alin 「山」	zhe gen sa lin 張広才岭 (84: 97) dʒəguŋts'aiiliŋ 吉祥如意山 (85: 6) dʒəguŋts'aiiliŋ 張広才岭 (85: 9)
jurumbi 「吐く、嘔吐する」	[ʃurun'mei] (88b: 20)
juse 「子供(たち) ³⁵ 」	ʃutsi (peija ʃutsi 小輩) (86a: 11) ʃuts (ʃuts əp'ir katali 像 児戯那樣) (86a: 12)
juwaci 「10 番目」	基 ʃuat'i (86a: 5)
juwali 「青蛙」	[duaili] (87: 18)
juwali + hengke ³⁶	[duaili həŋ'a] 黄瓜 (87: 18)
juwan 「10」	基 ʃu'an 固 ʃua 非固 ʃa (86a: 3) 基 ʃuan 固 ʃua 非固 ʃua (基 miŋan ʃuə t'aŋu ʃuan 固 miŋa ʃuə t'aŋu ʃua 非固 miŋ ʃuə t'aŋ ʃua 一千二百一十) (86a: 4)
juwan 「10」 + 「個」を表す要素	基 ʃuaŋkə 固 ʃuakə 非固 ʃua'a (86a: 7)
juwan 「10」 + mari 「回」	基 ʃuaməri 固 ʃuaŋəri 非固 ʃua'aəri (86a: 6)
juwan 「10」 + niyalma / nofi 「人」	基 ʃuannomə 固 ʃuannəp'i 非固 ʃuannə (86a: 8)
juwe 「2」	基 ʃuə 固 ʃuə 非固 ʃə (86a: 3)
juwe 「2」 + 「個」を表す要素	基 tʒuəkə 固 ʃuə'a 非固 ʃu'a (86a: 6)
juwe 「2」 + mari 「回」	基 ʃuəməri 固 ʃuəpəri 非固 ʃuə'aəri (86a: 6)
juwe 「2」 + niyalma / nofi 「人」	基 ʃuənəmə 固 ʃuənəp'i 非固 ʃuənə (86a: 8) ʃunəm (86a: 10) ʃunu (86a: 15)
kai 「指定や断定の終助詞」	ki (86a: 10) kai (86a: 11)
kaica- 「喊声をあげる」 kaicara	gaiʃ'al (85: 12)
karman 「保護」	[garman] 木柵 (87: 12) ³⁷

³⁵ 羽田(1937: 259)は満洲語文語の juse は jui の複数形としているが、早田(1988: 16)によれば、『満文金瓶梅』では屢一人の子供を指している。また、筆者が調査した満洲語三家子方言では /juse/ の指示対象は単数の場合と複数の場合のどちらもある。

³⁶ 原文ではアルチュカ語の [duaili həŋ'a] 「きゅうり」は満洲語文語の nasan hengke に対応すると主張しているが、意味的な対応であると考えられる。[həŋ'a] の部分は hengke と同源であると考えられるが、[duaili] の部分の由来は同音の [duaili] 「青蛙」である可能性がある。

³⁷ 原文ではアルチュカ語の [garman] 「木柵」は満洲語文語の faisha に対応すると主張しているが、意味的な対応であると考えられる。関雲路(私信)は満洲語文語 karman 「保護」と語源的に関係している可能性がある」と指摘している。

karmani 「神符」	galmənei (85: 14)
karula- 「報いる」 karulara	k'aruraz̥i (86a: 14)
kata- 「乾いて硬くなる」 kataha + nimaha 「魚」	[k'at'a iməhə] 魚干 (87: 9)
kataha + yali 「肉」	[k'ət'aŋ jəli] 肉干 (87: 9)
katun 「強壯」	[k'at'aŋ] (87: 9) [k'at'ən] (87: 14)
kerkeri 「あばた」	k'ək'əli (85: 15)
kice- 「努める」 kiceme	k'ifəm (86a: 13)
kimcin 「詳察」	[k'imtʃ'i] (88b: 24)
kokolimbi 「服を剥ぎ取る」	[k'ək'ulimeɪ] (88b: 14)
kordon 「氷/雪滑りに巧みな人」	[k'ulduŋ] (88b: 13)
koro 「恨み」	k'urə (86a: 16)
kundule- 「敬う」 kunduleme	k'əntiləm (86a: 11)
kūbuli- 「変る」 kūbulika	[k'uəbəlihə] (88b: 5-6)
kūbulimbi	[k'ubilimeɪ] (88b: 13)
kūthūbume nimembi 「きりきりと痛む」	k'ət'ə'əpəm ninbi (86a: 13)
kūthūmbi 「掻き混ぜる」	[k'ət'huəmeɪ] (88b: 15)
labdu 「多い」	lɔtɔ (86a: 14)
lakiya- 「吊るす」 lakiya	nak'ija (85: 14)
lakiyakū hacuhan 「吊り鍋」	[lak'ia hanʃ'u] (87: 10)
lala + bira	lələmi 爛泥河 (85: 6) lələmi 粘泥河 (85: 10, 11) ³⁸
lalanji 「ぐにやぐにや」	lələdi 粘泥地 (85: 10, 11) ləlɪŋ'iŋ 粘泥地 (85: 11)
lali 「爽快」	lalin (85: 14)
lasihimbi 「振り回す」	[laʃihimeɪ] (87: 7)
laya- + alin	ləjeliŋ 老爺岭 (85: 6) lojeliŋ 老爺岭、薦山 (85: 9) ³⁹
lefu 「熊」	[ləvə] (87: 7)
leke 「砥石」 + wehe 「石」	[ləwəhə] 磨石 (87: 24)
lengseki 「豚肥えで動作が鈍い」	[ləŋsɪk'] (88b: 24)
loho 「腰刀」	[lək'us] (87: 9)
lorin 「騾馬」	[lətsa] (87: 22) ⁴⁰

³⁸ 原文ではアルチュカ語の lələmi 「爛泥河」と lələmi 「粘泥河」(地名、「泥道」の意)は満洲語文語の lala bira に対応すると主張している。lala は「稷飯」などの意味を表すが、lalanji は「ぐにやぐにや」などの意味を表すため、意味的に関連性があると考えられる。

³⁹ 原文ではアルチュカ語の ləjeliŋ, lojeliŋ 「老爺岭」(地名)は満洲語文語の layan alin に対応すると主張しているが、layan という語形は羽田(1937)や福田(2008)などの満洲語文語辞典には見られない。原文では該地名の意味は「薦山」(萎れた+山)であることに言及しているため、ləjeliŋ, lojeliŋ の前の部分は満洲語文語の動詞 laya- 「萎れる」に由来していると考えられる。

⁴⁰ 原文ではアルチュカ語の [lətsa] 「騾馬」は満洲語文語の lorin に対応すると主張しているが、満洲語文語の lorin は中国語の「騾」と満洲語文語の morin 「馬」の rin から形成された語であり(季永海 1985: 25)、[lətsa]

luse 「こんろ」	[lutsə] 香炉 (87: 22) ⁴¹
mafa 「祖父；祖先」	mafa (85: 9)
mafa 「祖父；祖先」+派生接辞?	[mafuk'u] 熊神 (87: 18) ⁴²
mahū 「顔から肩にかけて被いかける皮製の被い物」	[maguə] (87: 10)
maise 「小麦」	[maitsə] (87: 22)
majige 「少々、少し」	matikə (86a: 12)
malu 「酒瓶」	malu 長脖子瓶 (85: 7) (dʒianfʰaŋ malu 小瓶) (85: 7)
mama 「祖母」	mama (waili mama 子孫媽媽) (85: 8)
mampin 「結び目」	mufi 結疙瘩 (85: 12)
mangga 「難しい；硬い；得意」	maŋa 能人 (86a: 10) [məŋgə] 能耐、硬 (87: 7)
mangga moo 「くぬぎ」	[məŋgə mɔɔ] 柞樹 (87: 10)
manju niyalma 「満洲人」	mandzinə 満洲人 (85: 7)
mari 「回」	məri (86a: 5, 6) pəri (86a: 5, 6) əri (86a: 5, 6)
megu 「菌の一種」	[məgu] ([finijege məgu] 猴頭磨菇) (87: 24)
meiherembi 「担ぐ」	[mihəlimei] (87: 7)
mejige 「消息」	[mədigə] (87: 12)
meni 「私たちの(除外的)」	məni (86a: 11)
meni meni / meimeni 「めいめい」	məni məni (86a: 13) [məiməni], [maiməni] (88b: 3)
mere-su	[məɾəsʊ] 蕎麦皮 (87: 9) ⁴³
mimbe 「私を」	mimə (86a: 10)
minde 「私に」	mintə (86a: 10) minə (86a: 11) min'nə (86a: 13)
minggaci 「千番目」	基 miŋkat'i 固 miŋat'i 非固 mi'at'i (86a: 5)
minggan 「千」	基 miŋan 固 miŋa 非固 mi'a (86a: 3)
minggan 「千」+「個」を表す要素	基 miŋankə 固 miŋakə 非固 mia'ə (86a: 7)
minggan juwe tanggū juwan 「千二百十」	基 miŋan ʃuə t'aŋu ʃuan 固 miŋa ʃuə t'aŋu ʃua 非固 miŋ ʃuə t'aŋ ʃua (86a: 4)
minggan 「千」+ mari 「回」	基 miŋkaməri 固 miŋaməri 非固 miaməri (86a: 6)
minggan 「千」+ niyalma / nofi 「人」	基 miŋkanəmə 固 miŋanəp'i 非固 miŋanə (86a: 8)

は中国語の「驢子」から来ていると考えられる。

⁴¹ 原文ではアルチュカ語の [lutsə] 「香炉」は満洲語文語の dabukū に対応すると主張しているが、[lutsə] は中国語の「炉子」から来ていると考えられる。満洲語文語にも中国語からの借用語 luse がある(福田 2008: 584)。但し、中国語の「炉子」と満洲語文語の luse は「こんろ」の意味である。

⁴² この語は満洲語文語の mafa に何らかの要素が付いた形式である可能性がある。満洲語文語の mafa は普通「祖父；祖先」の意味であるが、「神」を表す場合もある(例えば banda mafa 「狩猟の神」)。また、ウデヘ語の mafa は「年取った男」の意味もある(Nikolaeva and Tolskaya 2001: 47)が、北部方言では「熊」の意味もある(Nikolaeva and Tolskaya 2001: 9)。Оненко (1980: 258)によると、ナーナイ語の mapa も、「老人；祖父」と「熊」の意味がある。

⁴³ 原文ではアルチュカ語の [məɾəsʊ] 「蕎麦の皮」は満洲語文語の šuhuri に対応すると主張しているが、意味的対応であると考えられる。[məɾəsʊ] は mere 「蕎麦」に派生接辞がついた形式である可能性がある。

mini 「私の」	mini (85: 9; 86a: 15) min (85: 10) mn'ni (86a: 13) min'ni (86a: 16)
miosirilambi 「口元を押えて笑う」	[miɔʃi(r)ləmei] (88b: 24)
miyamigan 「女の頭部の飾り物」	[miɔmk'ə] (87: 9)
mociko 「斜め、いびつ」	[məʃik'ə] (88b: 13)
monggo boo 「蒙古天幕」	[mɔŋgu bɔɔ] (87: 8)
moo 「木」	mɔ (85: 6) [mɔɔ] (87: 9, 10, 13, 18; 88b: 9)
morin 「馬」	məli, moliŋ (85: 6) mori, morin (85: 14) [məriŋ] (87: 22)
moselakū 「ひき臼」	[məsələk'u] (88b: 13)
mucen 「鍋」	muʃ'in 中鍋 (85: 7) [muʃ'in] 鍋 (87: 9)
mudan 「音調；回；曲がり」	muna 次 (86a: 15)
muhan 「雄の虎」	mɔxa (85: 15)
mujilen 「心」	mudilə (86a: 12) mutilən (86a: 15, 16)
mukden 「興隆；盛京」	pək'tə 盛京 (86a: 18)
muke 「水」	muxɔ (85: 6, 12) muwə (86a: 14) [muk'ə] (87: 18)
mukšan 「棍棒」	mukzə 焼火棍 (85: 8) mukʃ'a 棍子 (85: 8)
mulan 「腰掛け」	[muləŋ] (87: 9)
munngan 「墳墓；丘陵」	[mɔŋgu] 墳丘子 (87: 18) ⁴⁴
muse 「私たち(包括的)」	muts (86a: 10, 15)
mutu- 「成長する」 mutuci	mut'ut'i (86a: 16)
mutuha	mət (86a: 15)
na 「地」	na 地 (85: 6) [na] ([na bəi] 本地人) (87: 17)
nadaci 「7 番目」	基 natant'i 固 nanat'i 非固 nant'i (86a: 5)
nadan 「7」	基 natan 固 nana 非固 na (86a: 3) 基 natan 固 nadan 非固 nana (86a: 9)
nadan 「7」 + 「個」を表す要素	基 natanʃkə 固 natakə 非固 nana'ə (86a: 7)
nadan 「7」 + mari 「回」	基 nataməri 固 nanaməri 非固 naŋməri (86a: 6)
nadan 「7」 + niyalma / nofi 「人」	基 nata nɔmə 固 natanɔp'i 非固 nananɔ (86a: 8)
nadanju 「70」	基 natantʃu 固 nanatʃu 非固 nantʃu (86a: 3)
nadanju 「70」 + 「個」を表す要素	基 natantʃukə 固 nataʃuke 非固 nanatʃu'ə (86a: 7)
nadanju 「70」 + mari 「回」	基 nadantʃuməri 固 nanatʃuməri 非固 nandʒuməri (86a: 6)
nadanju ninggun 「76」	基 natantʃu niɔkɔ 固 nanatʃu niɔ'ɔ 非固 nantʃu niɔ (86a: 4)
nadanju 「70」 + niyalma / nofi 「人」	基 nataʃunəmə 固 nanatʃunəp'i 非固 natʃunə (86a: 8)

⁴⁴ 原文ではアルチュカ語の [mɔŋgu] は満洲語文語の eifu に対応すると主張しているが、意味的な対応であると考えられる。満洲語文語の munggan との語源的関連性は筆者の推測である。

nadanjuici 「70 番目」	基 nadanʃutʹi 固 nataʃutʹi 非固 nanatʃutʹi (86a: 5)
nahan 「オンドル」	[nahə] (87: 8)
naka- 「やめる」 naka	naga (86a: 15)
nakcu 「母の兄弟」	naʹutʃʹu (85: 8)
narhūn 「細い；秘密の」	narʹun 機密 (86a: 10)
necihiyembi 「平らかにする」	[nəʃʹiəmei] (88b: 22)
neci- 「侵犯する」 necirakū	nətʹiraʹə (86a: 12)
nekeliyen 「薄い」	nəʹəlijən (86a: 13)
neku 「女同士の友達」	nəkʹu 朋友 (86a: 13) [nəkʹu] 朋友 (87: 11) ⁴⁵
nergi 「利口」	[nərgi] 聡慧 (88b: 21)
nergin 「機会、丁度の時」	[nərgin] 臨時 (88b: 21)
nerkimbi 「広げる」	[nərkʹinʹmei] (88b: 20)
nesuken 「温良」	nəsīgə (85: 10)
ni 「疑問や感動を表す終助詞」	ni (86a: 15)
nicuhe 「真珠」	indʒukʹə (85: 12) [intʃukʹə] (87: 11)
nikan niyalma 「漢人」	nijakənə (85: 7)
nimaha 「魚」	[iməhə] ([kʹatʹa iməhə] 魚干) (87: 9) [imaha] (87: 13)
nimalan 「桑」	imala 桑樹 (85: 15)
niman 「やぎ」	iman (85: 15)
nimanggi 「雪」	imaŋgi (85: 6, 15) niməŋ (85: 9)
nimecuke 「酷い」	imʃixa 厲害 (85: 11)
nimeku 「病気」	niŋkʹu (86a: 13)
nimembi 「病む；痛む」	ninbi 痛 (86a: 13) ninpi 疼 (86a: 14)
ninggu 「上」	jɪŋku (86a: 14)
ningguci 「6 番目」	基 niəkətʹi 固 niəkʹutʹi (86a: 5)
ninggun 「6」	基 niŋkə 固 niəkə 非固 nīə (86a: 3)
ninggun 「6」 + 「個」を表す要素	基 ninkukə 固 niukuʹə 非固 niuʹuʹə (86a: 7)
ninggun 「6」 + mari 「回」	基 niŋkunməri 固 nikuməri 非固 niŋəri (86a: 6)
ninggun 「6」 + niyalma / nofi 「人」	基 niəkənəmə 固 niəkʹənəpʹi 非固 niəkʹənə (86a: 8)
ninju 「60」	基 niŋʃu 固 jɪŋʃu 六十 (86a: 3)
ninju 「60」 + 「個」を表す要素	基 niŋʃukə 固 jɪŋʃukə 非固 intʃuʹə (86a: 7)
ninju 「60」 + mari 「回」	基 niŋʃuməri 固 jɪŋʃuməri 非固 intʃuməri (86a: 6)
ninju 「60」 + niyalma / nofi 「人」	基 niŋʃunəmə 固 jɪŋʃunəpʹi 非固 intʃunə (86a: 8)

⁴⁵ 原文ではアルチュカ語の **[nəkʹu]**, **nəkʹu** は満洲語文語の **gucu** に対応すると主張しているが、意味的な対応であると考えられる。満洲語文語の **neku** 「女同士の友達」との語源的関連性は筆者の推測である。なお、池上(1999a[1994]: 230)は満洲語文語の **nehū** ~ **nehu** 「使婢」は満洲語文語の **neku** 「女同士の友達」やエウエンキー語の **nəkun** 「妹」との語源的関連性を提起している。エウエンキー語の **nəkun** 「妹」のツングース諸語における同源語は Цинциус и др. (1975: 617-618)を参照されたい。

ninju sunja 「65」	基 niŋʃu sunʃia 固 niŋʃu suʃi 非固 jŋʃu sut'i (86a: 4)
ninjuci 「60 番目」	基 niŋʃut'i 固 jŋʃut'i (86a: 5)
niohe 「狼」	[niɔɔ] 狼 (87: 13)
niolhun 「正月の 16 日」	基 niulxu 固 niuxu 非固 niu'u 十六 (86a: 3)
niolhun 「正月の 16 日」+「個」を表す要素	基 niulxukə 固 niuxukə 非固 niu'ukə 十六个 (86a: 7)
niolhun 「正月の 16 日」+ -ci 「番目」	基 niulxut'i 固 niuxut'i 非固 niu'ut'i 第十六 (86a: 5)
niolhun 「正月の 16 日」+ mari 「回」	基 niulxuməri 固 niuxuməri 非固 niuməri 十六次 (86a: 6)
niolhun 「正月の 16 日」+ niyalma / nofi 「人」	基 niulxunəmə 固 niuxunəp'i 非固 niuxunə 十六 (86a: 8)
niowanggiyan 「緑」	nongiaŋ (85: 7)
nisiha 「小魚」	ifixa (85: 12) ifxa (85: 15) [ifɪha] (87: 13)
niyakūra- 「脆く」 niyakūra	[miak'ura] (87: 12)
niyalma / nofi 「人」	nəmə (85: 7, 9; 86a: 7, 8, 10, 11, 14, 15, 16; 88b: 10) nə (85: 7, 9, 13; 86a: 7, 8, 12, 13) nəmə (86a: 7, 8) nəp'i (86a: 7, 8) nə (86a: 7, 8) nəp'i (86a: 8) nəme (86a: 8) [nəmə] (87: 13) [nəmə] (87: 17)
niyaman 「心臓；中心；親類；親」	neiman 心 (86a: 13) [nijahan] 心 (87: 13)
niyehe 「鴨」	[jəhə] (87: 11)
niyehe tungge 「野菜の名」	[itun'ə] 車帖韃菜 (87: 17)
niyerengge 「薄着のもの」	[niərəŋ] 单薄的 (88b: 23)
niyo i ba 「湿って水草の生えた地所」	[niɔi ba] 水甸子 (87: 8)
* <i>niyuhun</i> 「18」	基 niɔkən 固 niɔ'ən 非固 niɔn 十八 (86a: 3) 基 niɔɔ 固 niɔɔ 非固 niɔ'ə (基 niɔɔ tiɔkə 固 niɔɔ tiɔxə 非固 niɔ'ə tiɔxə 十八支鷄) (86a: 9)
* <i>niyuhun</i> 「18」+「個」を表す要素	基 niɔkəŋkə 固 niɔ'əŋkə 非固 niɔŋə 十八个 (86a: 7)
* <i>niyuhun</i> 「18」+ -ci 「番目」	基 niɔkət'i 固 niɔ'ət'i 非固 niɔt'i 第十八 (86a: 5)
* <i>niyuhun</i> 「18」+ mari 「回」	基 niɔkəməri 固 niɔ'əməri 非固 niɔməri 十八次 (86a: 6)
* <i>niyuhun</i> 「18」+ niyalma / nofi 「人」	基 niɔkənəmə 固 niɔ'ənəp'i 非固 niɔ'ənə 十八人 (86a: 8)
nonggi- 「加える」 nonggime	nəŋim (86a: 11)
nure 「粟・黍等を原料として醸造した酒」	nul (85: 9)
o 「疑問を表す終助詞」	ɔ (86a: 14) kə (86a: 16)

o- 「なる」 oci	ot'i (86a: 17)
ofi	op'i (86a: 17)
ojorahū	ot'ira'ɔ (86a: 12) ot'ira'xɔ (86a: 16)
ojorakū	kot'ira'ɔ (86a: 12) ot'ira'ɔ (86a: 13, 15, 16, 17)
ombi	omei (86a: 13) komei (86a: 15)
oforo 「鼻」	[ɔfəilɔ] (88b: 12)
oilori 「偶然；表面に」	[ailali] 表面上 (88b: 8)
okson 「歩み、一歩」	ək'jin (85: 10) [ɔkts'ɔn] (87: 7)
okto 「薬」	ot'ɔ (86a: 13)
olo 「麻」	unloŋ 麻 (85: 7)
olongdo 「股まである長靴」	[ɔŋdɔ] 翁得鞋 (87: 7)
omi- 「飲む」 omici	komiŋi (86a: 13)
omiki?	okija 喝 (85: 7)
omihon 「飢えた」	umiŋ (85: 7)
omšon 「11 月の 11」	基 ɔnsɔ 固 ɔnsɔ 非固 ɔnsi 十一 (86a: 3)
omšon 「11 月の 11」 + 「個」を表す要素	基 ɔmsukɔ 固 ɔnsukɔ 非固 ɔnskɔ 十一个 (86a: 7)
omšon 「11 月の 11」 + -ci 「番目」	基 ɔnsot'i 固 ɔnsit'i 非固 ɔnst'i 第十一 (86a: 5)
omšon 「11 月の 11」 + mari 「回」	基 ɔnsəməri 固 ɔnsəŋəri 非固 ɔnsə'əri 十一次 (86a: 6)
omšon 「11 月の 11」 + niyalma / nofi 「人」	基 ɔnsənɔmə 固 ɔnsənɔp'i 非固 kənsənɔ 十一人 (86a: 8)
onco 「広い」	unŋ'u (85: 11)
onggošon 「魴の一種」	uŋguzɔ (85: 11)
*oniyohon 「19」	基 kuniku 固 kuni'u 非固 uniu 十九 (86a: 3)
*oniyohon 「19」 + 「個」を表す要素	基 kuniukɔ 固 uniukɔ 非固 uniuɔ 十九个 (86a: 7)
*oniyohon 「19」 + -ci 「番目」	基 kunikut'i 固 kuniut'i 非固 uniut'i 第十九 (86a: 5)
*oniyohon 「19」 + mari 「回」	基 kunikuməri 固 kuniu'əri 非固 uniu'əri 十九次 (86a: 6)
*oniyohon 「19」 + niyalma / nofi 「人」	基 kunikunɔmə 固 unikunɔp'i 非固 uni'unɔ 十九人 (86a: 8)
orho 「草」	olo (85: 7, 9) [ɔlɔhɔ] 草 (87: 9)
orici 「20 番目」	基 ɔnit'i 固 ɔrit'i 非固 ɔrt'i (86a: 5)
orin 「20」	基 ɔrin 固 ɔri (86a: 3)
orin 「20」 + 「個」を表す要素	基 ɔrinkɔ 固 ɔrikɔ 非固 ɔri'ɔ (86a: 7)
orin emu 「21」	基 ɔri əm 固 ɔri ɔm (86a: 4)
orin 「20」 + mari 「回」	基 ɔrinməri 固 ɔriməri (86a: 6)
orin 「20」 + niyalma / nofi 「人」	基 ɔrinɔmə 固 kərinɔp'i 非固 ɔrinɔ (86a: 8)

oron 「位置；空いた職；魄」	urəŋ 魂魄 (85: 10)
osohon 「小さい」	ɔso (86a: 13) ⁴⁶
oton 「木のくりぬき盆」	[ɔt'ʊŋ] 槽子 (87: 7)
oyo- 「曲げる；急ぐ」 oyokobi 「大抵完成に近い」	[ajək'əbi] 馬上就完、這就完 (88b: 13)
oyombu- 「急ぐ」 oyomburakū 「遅緩している」	[gɔjunbulak'u] 没要緊、没什么要緊 (88b: 18)
pongcuŋ 「太短い」	bəŋtʃ'in (85: 12)
sabka 「箸」	sa'uxa (85: 11)
sabu 「靴」	sawə (85: 12)
sabu- 「見る、見える」 sabufi	sa'ɔp'i (86a: 11)
sahaliyan 「黒い」	saxəniŋ (85: 7) saxənijan (85: 13)
saihūwa 「いばら」 + 派生接辞	[sak'əli] 荊条子 (87: 17)
saikan 「美しい」	ts'aixən (85: 15)
saimbi 「噛む」	[ts'aimeɪ] (87: 9)
saimengge 「嚼みきれない」	[ts'amu'ə] (87: 9)
sain 「良い」	ts'an (85: 15; 86a: 14) [ts'an] (87: 9) [ts'ai] ([ʃaŋk'ə ts'ai] 恰好) (87: 10)
saksu 「竹や柳枝等で編んだ籠」	[suk'su] 柳条園子 (87: 10)
saman 「薩満(シャーマン)」	ts'aman (85: 15) ts'ama (86a: 11, 15) [ts'aman] (87: 9)
sampa 「えび」 + -ri 「派生接辞」	[ts'apuli] 水刺蛄 (87: 18) ⁴⁷
sanca 「木耳」	[ciŋtʃ'i] (87: 17)
saniyambi 「伸びる」	[səninmeɪ] (87: 7)
sara 「傘」	[ts'ara] (87: 23)
sargan 「妻」	sarxan (85: 12) ts'akan (86a: 15) ts'aka (86a: 15, 16)
sargan jui 「女の子」	ts'aga dʒi (85: 9) ts'aktʃi (86a: 16) ts'akatʃi (86a: 17)
sebjən 「楽しみ、悦び」	[ts'əvtʃən] (87: 11)
secimbi 「溝を開く」	[ciŋtʃ'in'meɪ] (88b: 20)
sejen 「車」	sədʒi (85: 7)
seke 「貂；貂の皮」	[sək'ə] 貂 (87: 7)
se- 「と言う」 sembi	ts'əmeɪ (86a: 11) ts'əmeɪ (86a: 12, 16)
seme	ts'ə (85: 9) ts'i (86a: 10) ts'am (86a: 13, 16) ts'e (86a: 14)
sere	tsə (85: 10)

⁴⁶ 原文ではアルチュカ語の ɔso は満洲語文語の ajige に対応すると主張している。満洲語文語 osohon との語源的関連性は筆者の推測である。ただし、ɔso には hon に当たる要素がない。

⁴⁷ 穆曄駿(1987: 18)によると、アルチュカ語の [ts'apuli] はバラ語の同じ意味の [ts'anpili] に対応する。また、穆曄駿(1987: 18-19)によると、バラ語の [ts'anpili] の [ts'anpi] の部分は満洲語文語の sampa と同源であり、[li] の部分は満洲語の派生接辞 -ri と同源であると主張している。

semken 「腕輪」	[suŋkʰə] (87: 9) [səŋkʰuə] (88b: 11)
sence 「菌の一種」	[ɕiŋgi] 蘑菇 (87: 17) [səntʃʰə] ([sujan səntʃʰə] 元蘑) (87: 24) ([ʃiʃi səntʃʰə] 榛蘑) (87: 24)
senceri	[tsʰəŋʰəli] 樹裙子 (87: 24) ⁴⁸
sengkiri (sengkiri hiyan 「芸香」)	[ʃəŋkəli] 安春香 (87: 13) ⁴⁹
si 「君、あなた、お前」	si (85: 13) ɕi (86a: 10, 12, 14, 15)
sibe niyalma 「シベ人」	sinbinə (85: 9)
sijirhūn 「まっすぐ；率直」	ɕiʃirʰən (86a: 10)
sike 「小便」	[ʃikʰə], [ɕikʰə] (87: 9)
sikse 「昨日」	ɕikʰtsa (86a: 15)
silenggi 「露；唾」	ɕimaŋi 露 (85: 6) ⁵⁰
silhingga 「妬み深い」	ɕileiŋa (86a: 12) ɕilxiŋa (86a: 16)
silun 「獣の名」	[ʃilu] 猓猓 (87: 10) [ʃilən] 猓猓孙 (88b: 8)
simbe 「君を」	ɕinmə (86a: 13) ɕinpə (86a: 14, 15)
sim(hu)-ku	[ʃumkʰə] 指環 (87: 13) ⁵¹
simtu 「大きな鉄製の鍋」	ʃəmu 鍋 (85: 7) [ʃəmu] 大鍋 (87: 18)
sinda- 「置く」 sinda	ɕinta (86a: 9)
sinde 「君に」	ɕintə (86a: 12)
singgeri 「鼠」	ɕiŋkʰei (86a: 11)
sini 「君の」	ɕini (86a: 11, 13, 15, 16) ɕin (86a: 13) ɕinʰni (86a: 16)
sishe 「褥」	[ʃəshə] (87: 12)
sisi 「榛の実」	siʃi (85: 10) [ʃiʃi] (87: 12)
sisi sence 「榛茸」	[ʃiʃi səntʃʰə] (87: 24)
siyan šeng 「先生」	ɕian ʃəŋ 先生 (86a: 11)
solho niyalma 「朝鮮人」	sogunə 朝鮮人 (85: 7) 高麗人 (85: 9)
suihe 「穗」	[suiʃi] (87: 22) ⁵²
sunggada 「川魚の名」+ calgin 「河岸の緩い勾配」+ bira 「川」	suŋatʃʰami 白魚流子河 (85: 7)

⁴⁸ 原文ではアルチュカ語の [tsʰəŋʰəli] は満洲語文語の senceri に対応すると主張しているが、senceri は羽田 (1937) や福田 (2008) などの満洲語文語辞典には見られない。

⁴⁹ 原文ではアルチュカ語の [ʃəŋkəli] 「安春香」は満洲語文語の ancun hiyan に対応すると主張しているが、意味的対応であると考えられる。廖子豪 (私信) は [ʃəŋkəli] は満洲語文語の sengkiri hiyan 「芸香」の sengkiri の同源語である可能性があると指摘している。

⁵⁰ 原文ではアルチュカ語の ɕimaŋi 「露」は満洲語文語の silenggi 「露；唾」に対応すると主張しているが、2 音節目に顕著な違いが見られる。アルチュカ語の imaŋi 「雪」などの類推によるか。

⁵¹ 原文ではアルチュカ語の [ʃumkʰə] 「指輪」は満洲語文語の guifun に対応すると主張しているが、意味的対応であると考えられる。[ʃumkʰə] は simhun 「指」に派生接辞がつく形式である可能性はある。この接辞は、[ʃankʰə] 「下げ飾りのついた耳飾り」にも見られる。

⁵² 満洲語文語の suihe の sui の部分は中国語の「穗」から来ており、-he は満洲語の固有の接辞である (Schmidt 1933: 393)。一方、アルチュカ語の [suiʃi] は中国語の「穗子」からの借用語であると考えられ、-he に当たる要素はない。

songgina 「野葱」 ⁵³	[uŋgina] 野葱 (87: 9)
sunja 「5」	基 sunʃia 固 suʃi 非固 siʃi (86a: 3)
sunja 「5」 + 「個」を表す要素	基 sunʃiakə 固 suʃiakə 非固 suʃiaʼə (86a: 7)
sunja 「5」 + mari 「回」	基 sunʃiaməri 固 suʃiaməri 非固 sunʃiaʼəri (86a: 6)
sunja 「5」 + niyalma / nofi 「人」	基 sunʃianəme 固 sunʃianəpʼi 非固 sunʃianə (86a: 8)
sunjaci 「5 番目」	基 sunʃiatʼi 固 suʃiatʼi 非固 suʃitʼi (86a: 5)
susai 「50」	基 tsʼutsʼei 固 tsʼutsʼi 非固 tsʼitsʼi (86a: 3)
susai 「50」 + 「個」を表す要素	基 tsʼutsʼaikə 固 tsʼutsʼekə 非固 tsʼuskə (86a: 7)
susai duin 「54」	基 tsʼutsʼei tui 固 tsʼutsʼi ti 非固 tsʼus ti (86a: 4)
susai 「50」 + mari 「回」	基 tsʼutsʼeiməri 固 tsʼutsʼeməri 非固 tsʼusməri (86a: 6)
susai 「50」 + niyalma / nofi 「人」	基 tsʼutsʼeinəmə 固 tsʼutsʼeinəpʼi 非固 tsʼusnə (86a: 8)
susaici 「50 番目」	基 tsʼutsʼatʼi 固 ʃutsʼeitʼi 非固 tsʼutsitʼi (86a: 5)
susu 「原籍地」	sus (86a: 13)
suwanda 「にんにく」	suandə 蒜 (85: 11) [nikʼsuan] 蒜 (87: 22)
suwayan 「黄色い」	suwən 黄 (85: 7)
suwayan 「黄色い」 + sence 「菌の一種」	[sujan sənʃʼə] 元蘑 (87: 24) ⁵⁴
suyen 「あく汁」	[səjən] (88b: 8)
šahūrun 「寒い」	[ʃaʼurun] (87: 10)
šakšaha 「ほお」	[ʃakʼʃa] (88b: 23)
šakšan 「ずるい」	[ʃakʼʃan] (88b: 23)
šanggiyan / šanyan 「白い」	ʃan 白 (85: 7)
šanggiyan 「煙」	[ʃanʃian] 煙 (87: 6)
šan-kū	[ʃankʼə] 耳墜子 (87: 13) ⁵⁵
šatan 「白砂糖」	zətə 白糖 (85: 11)
šeri 「泉」	ʃəri (85: 14)
šobin 「中国の焼餅」	[ʃəbiŋ] 餅 (87: 22)
šongkon 「海青(鳥の名)」	[ʃəŋkʼuə] (88a: 25)

⁵³ 原文ではアルチュカ語の [uŋgina] 「野葱」は満洲語文語の songgina に対応すると主張しているが、Sulfa (私信)によると、songgina の誤植である。なお、満洲語文語の songgina という綴りの見出し語は『新満漢大詞典』第1版(胡増益 1994: 687)にはあるが、第2版(胡増益 2020: 1090)にはない。

⁵⁴ 原文ではアルチュカ語の [sujan sənʃʼə] 「元蘑」は満洲語文語の sara sence に対応すると主張しているが、sara sence は羽田(1937)や福田(2008)などの満洲語文語辞典には見られない。また、[sujan] と sara は同源語とは考えにくい。「元蘑」というものは「黄蘑」とも呼ばれる(宮吉・川上 1940: 1098)。そして、[sujan] は満洲語文語の suwayan 「黄色い」に発音が近い(シベ語の同源語 /suyaN/ 「黄色い」に更に近い)。そのため、[sujan] は満洲語文語の suwayan の同源語である可能性がある。なお、アルチュカ語の「黄色い」は suwən という形式の記録もある(穆曄駿 1985: 7)。

⁵⁵ 原文ではアルチュカ語の [ʃankʼə] 「下げ飾りのついた耳飾り」は満洲語文語の ancun に対応すると主張しているが、意味的対応であると考えられる。[ʃankʼə] は šan 「耳」に派生接辞 -ke がつく形式である可能性がある。

šoyombi 「縮まる」	[ʃjɪmə] (88b: 24)
šun 「太陽」	[ʃun] (87: 6)
tacin 「学問；風習」	[tʰatʰin] 学 (87: 13)
taktu 「楼、高楼、楼閣」	[tʰaŋtʰu] 倉楼子 (87: 10)
takū 「川魚の名」	[tʰakʰu], [tʰahu] 胖頭魚 (88b: 5)
takūlu 「暫く待て」	[tʰakʰulu] (88b: 15)
talka- 「魚を半熟に焼く」	[tʰalha] 炭火烤熟的獸、魚肉 (87: 18) ⁵⁶
talkiyan 「電光、稲妻」	tamən 電 (85: 6)
talman 「霧」	tʰamaŋi (85: 6)
tampin 「壺」	[tʰamin] (87: 22)
tanggū 「百」	基 tʰaŋku 固 tʰaŋʰu 非固 tʰaʰu (86a: 3)
tanggū 「百」 + 「個」を表す要素	基 tʰaŋkukə 固 tʰaŋukə 非固 tʰaŋuʰə (86a: 7)
tanggū 「百」 + mari 「回」	基 tʰaŋkuməri 固 taŋʰuməri 非固 tʰaŋməri (86a: 6)
tanggū 「百」 + niyalma / nofi 「人」	基 tʰankunəmə 固 taŋkunəpʰi 非固 tʰaŋunə (86a: 8)
tanggū uyun 「百九」	基 tʰaŋku ujen 固 tʰaŋu uje 非固 tʰaŋ uje (86a: 4)
tanggūci 「百番目」	基 tʰaŋkutʰi 固 taŋutʰi 非固 taʰutʰti (86a: 5)
tarbahi 「川獺；川獺の皮」	[tʰarbihi] 獺子皮 (88b: 19)
targikū umiyaha 「刺虫」	tʰarkiʰəmijaka 楊辣子虫 (86a: 14)
tari- 「植える」 tarici	tairtʰi (86a: 13)
tasha 「虎」	tʰaz (86a: 12) [tʰatsa] (87: 7)
te 「今、現在」	tʰə (86a: 16)
te- 「座る；乗る」 tefi	tʰəfi (86a: 14)
tembi	tʰəimei (85: 7)
teni 「たった今」	tʰən (86a: 14)
teodenjembi 「互いに移し換える」	[tʰəɔdəŋəmei], [tʰaɔdəŋəmei] 挪移 (88b: 2-3)
tere 「それ；その；彼、彼女」	tʰə (85: 13) tʰrə (86a: 13) tʰər (86a: 14, 15) tʰərə (86a: 14)
terge-mbi	[tʰəgəmei] 赶馬車 (87: 7) ⁵⁷
tese 「彼ら」	tʰats (86a: 13)
tesu ba 「原住地」	tʰəsu pa (86a: 13)
tob seme 「正に」	to tsʰə (85: 9)

⁵⁶ 原文ではアルチュカ語の [tʰalha] は満洲語文語の talha に対応すると主張しているが、talha は羽田(1937)や福田(2008)などの満洲語文語辞典には見られない。一方、胡增益(2020: 1131)は満洲語文語の talkambi 「魚焼到半生不熟(喫)」を収録している。talka- は形式も意味も [tʰalha] と類似性を示しているが、語源的に関連しているかは再考する必要がある。なお、Sulfa (私信)が指摘しているように、満洲語文語の talkambi の綴りは、『御製清文鑑』(康熙 47 年序)と『御製滿珠蒙古漢字三合切音清文鑑』(乾隆 45 年序)では talkambi、『御製増訂清文鑑』(乾隆 36 年序)と『五体清文鑑』(乾隆 50 年代)では talgambi となっている。

⁵⁷ 原文ではアルチュカ語の [tʰəgəmei] は満洲語文語の tergambi に対応すると主張しているが、tergambi は羽田(1937)や福田(2008)などの満洲語文語辞典には見られない。但し、tergeci 「車夫」という語形があり、語基 terge- に派生接辞 -ci がついた形式であると考えられる。また、Hauer (2007: 470)はモンゴル語から満洲語に入った借用語 terge 「荷車、車」を収録している。

tobgiya 「膝」	[t'əujia] (87: 17)
tofohoci 「15 番目」	基 t'əwɔxət'i 固 t'ə'ɔxət'i 非固 t'əɔxət'i (86a: 5)
tofohon 「15」	基 t'əfxə 固 t'ə'xə 非固 t'ə'ə (86a: 3)
tofohon 「15」 + 「個」を表す要素	基 t'əwəŋkə 固 t'əŋkə 非固 t'əŋə (86a: 7)
tofohon 「15」 + niyalma / nofi 「人」	基 t'əfɔxənmə 固 t'əfɔxənp'i 非固 t'əwənmə (86a: 8)
tofohon 「15」 + mari 「回」	基 t'əfxəməri 固 t'əxəməri 非固 t'əxəŋəri (86a: 6)
tofohon tumen juwe minggan duin tanggū 「十五万二千四百」	基 t'əfxə t'umən ʃuə miŋa tui taŋ'u 固 t'əxə t'umə ʃuə miŋa dui t'aŋ (86a: 4)
toiton 「郭公」	[t'uat'un] (87: 7) [t'uit'un] (88b: 5)
toli 「神鏡」	[t'uəla] (88b: 7)
tuci- 「出る」 tucike	t'ut'i'ə (86a: 16)
tucikebi	t'ut'iəpi (86a: 17)
tugi 「雲」	tuigə (85: 6) t'uiki (86a: 14) [t'uigə] (87: 6)
tuhe efən 「煎餅の如き物」	t'uxəwəŋ 鍋餅 (85: 10)
tuhembi 「倒れる ; 落ちる」	tu'umei (niməŋ tu'umei 下雪) (85: 9)
tule 「外」	[t'ulə] 外 (87: 6)
tumen 「一万」	基 t'umən 固 t'umə 非固 t'um (86a: 3, 9)
tumen 「一万」 + 「個」を表す要素	基 t'umənkə 固 t'uməkə 非固 t'umə'ə (86a: 7)
tumen ilan minggan juwe tanggū dehi 「一万三千二百四十」	基 t'umən ilan miŋkan ʃuə t'aŋu təxi 固 t'umən ila miŋa ʃuə taŋu təxi (86a: 4)
tumen 「一万」 + mari 「回」	基 t'um'məri 固 t'uŋməri 非固 t'uməri (86a: 6)
tumen 「一万」 + niyalma / nofi 「人」	基 t'umənəmə 固 t'umənəp'i 非固 t'umənə (86a: 8) t'umənə (86a: 16)
tumenci 「一万番目」	基 t'umət'i 固 t'umt'i (86a: 5)
turgun 「原因」	t'uku (86a: 15)
turi 「豆」	[təi] ([halbin təi] 扁豆) (87: 23)
tusa 「益」	tus (86a: 11) t'us (86a: 13)
tuwa 「火」	t'owə 火 (85: 6) [t'əwə] (88b: 10)
tuwa- 「見る」 tuwa	t'a (85: 13)
tuwaci	t'a'at'i (86a: 14)
tuwambi	tə'amei (85: 7)
tuwara	t'u'ar (85: 10) [t'urgara] (87: 11)
tuwakiya- 「見張る」 tuwakiyara	t'a'ak'ijara (86a: 14)
tuwanabu- 「見に行かせる」 tuwanabufi	t'u'ana'up'i (86a: 10)
tuyekte 「果物の名」	[t'uik'ə] 紅扁囊核子果 (87: 6)
tūme efən 「栗餅」	tuməwəŋ (85: 12)
uba 「ここ」	upa (86a: 14) əpa (86a: 16)

ubiyada 「嫌悪すべき」	[ipiatə] (87: 6) [ipidə] (87: 11) [ubiadə], [ibiadə] (88b: 6) ⁵⁸
ubu 「分け前；官職；倍」	upə 倍 (86a: 11)
ucara- 「出会う」 ucaraha	ut'iaraxa (86a: 14)
uce 「家の門」	uŋ'i (85: 10, 12)
ucule- 「歌う」 uculehe	uŋ'iləxə (86a: 14)
uculembi	[uŋ'iləmi] (87: 12)
ucun 「歌」	uŋ'in (86a: 14) [uŋ'in] (87: 12)
ucuri 「機会」	ut'uri (86a: 12)
udambi 「買う」	[k'udamei], [k'udənmei] (88b: 18)
udu 「とはいえ；いくつ；どれだけ」	utə 雖然 (86a: 10) kutu 幾 (86a: 16) utu 多(遠) (86a: 18)
ufara- 「誤る；損する」 ufaraci	ufarat'i (86a: 12)
uhala 「睾丸」	əxul (85: 11)
uhe 「和合した；一緒に」	uxə (86a: 15)
uhuken 「柔らかい」	əsuχəŋ 軟和 (85: 11) ⁵⁹
uhume 「叔母」	ugumə 孀母 (85: 12)
ujen 「重い；重要」	uŋ'an 重 (85: 12) [uiŋ'in] 重 (88b: 3)
uju 「頭；1 番目」	[uŋ'u] 頭、首、第一 (87: 7)
ujuleme	uŋ'iləm 重(報) (86a: 14) ⁶⁰
ukada 「叢」	[ɕk'ən] 塔頭墩子 (87: 12)
ukdun 「山背、河岸に穿った洞窟；(ukdun boo)地下窟；窓のない建物」	oxdiŋ 地窖子 (85: 11) [u'ədun] ([u'ədun boo] 地窖子房) (87: 18)
uksin 「鎧」	uxzə (85: 8)
ula 「河」	ula (85: 6) [ula] (87: 17)
ulan 「師の伝え」	[ulan] ([ulan gisun] 伝説) (87: 13)
ulgambi 「濡らす、浸す」	ɔlxamei (85: 11)
ulgiyan 「豚」	uŋdʒia (85: 8) unkia (86a: 16)
ulha 「家畜」	ulga (85: 8) ula (ula'wə 没有牲口) (85: 10) [ulha] (87: 7)
uli 「庭梅」	[uili] 山丁子 (87: 6)
ulin 「貨財」	ulin (86a: 12)

⁵⁸ 原文では [ibiadə] という形式を挙げていないが、「在阿勒楚喀語中這兩個詞是併用的」(アルチュカ語ではこの2つの語は併用される)という記述ある。この「兩個詞」(2つの語)というのは、u で始まる形式と i で始まる形式を指す。

⁵⁹ 原文ではアルチュカ語の əsuχəŋ は満洲語文語の usuken に対応すると主張しているが、usuken は羽田(1937)や福田(2008)などの満洲語文語辞典には見られない。ここでは代わりに uhuken を挙げた。

⁶⁰ 原文ではアルチュカ語の [uŋ'iləm] は満洲語文語の ujuleme に対応すると主張しているが、ujule- は羽田(1937)や福田(2008)などの満洲語文語辞典には見られない(ujula- 「首班となる；先頭に立つ」はあるが)。但し、ujuleme は胡增益(2020: 302, 1214)が挙げた例文にはある。

uluncu 「野菜の名」	[uləntʃʰi] 野鷄膀菜 (87: 13)
uluri 「果物の名」	[ululi] 軟柿子 (87: 8)
ume 「～な(否定命令を表す)」	ɔm (86a: 10) ɔmə (86a: 12)
umesi 「甚だしく」	[ɔmʃi] ([ɔmʃi əʃəri] 大忙季節) (88a: 18)
umiyaha 「虫」	ɔmijaka (86a: 14) [umijaha], [imijaha] (88b: 12)
umiyelembi 「帯を結ぶ」	[imijələmei] (88b: 14)
umiyesun 「腰帯」	[umijəsun], [imijəsun] (88b: 4)
umpu 「山査子の実」	[ənbu] (87: 11)
una 「果物の名」	[uina] (87: 6)
unde 「まだ」	und (85: 10)
ura 「尻」	wələ (85: 11)
urgunje- 「喜ぶ」 urgunjere	[wəntʃərə] (87: 11)
urunakū 「必ず」	urna'ɔ (86a: 10, 11) kurna'ɔ (86a: 14)
usiha 「星」	[uʃiha] (87: 6)
usin 「田地」	uzən (85: 8) uzin (85: 12; 86a: 13) uzə (85: 15)
ušambi 「引く」	[uzəmei] (87: 10)
uttu 「このように」	kətɔɔ (86a: 10)
uyašan 「泥鰱」	weizəŋ (85: 11)
uyuci 「9 番目」	基 ujet'i 固 uit'i 非固 ueit'i (86a: 5)
uyun 「9」	基 ujen 固 uje 非固 ui (86a: 3)
uyun 「9」 + 「個」を表す要素	基 ujenkə 固 ujekə 非固 ui'ə (86a: 7)
uyun 「9」 + mari 「回」	基 ujenməri 固 ujeməri 非固 uei'əri (86a: 6)
uyun 「9」 + niyalma / nofi 「人」	基 ujennəmə 固 ujenəp'i 非固 ujenə (86a: 8)
uyunju 「90」	基 ujentfu 固 ujeŋfu 非固 untfu (86a: 3) 基 ujentfu 固 ujeɳdzu 非固 undzu (86a: 9)
uyunju 「90」 + 「個」を表す要素	基 ujentfukə 固 ujeɳfukə 非固 uitfu'ə (86a: 7)
uyunju jakūn 「98」	基 ujentfu ɬiak'uŋ 固 untfu ɬiak'u 非固 untfu ɬia'u (86a: 4)
uyunju 「90」 + mari 「回」	基 ujeɳfuməri 固 ujeɳfəməri 非固 ueiɳfuməri (86a: 6)
uyunju 「90」 + niyalma / nofi 「人」	基 ujeɳfunəmə 固 untfunəpi ⁶¹ 非固 untfunə (86a: 8)
uyunjuci 「90 番目」	基 ujeɳfut'i 固 untfut'i (86a: 5)
üren 「位牌」	[ɔlin] (88b: 9)
wajimbi 「終わる」	[ɔdimeɪ] (87: 11)
wakala- 「責める」 wakalara	wak'laɳɬi (86a: 10)
wali mama 「食物の神。部屋の扉」	waili mama 子孫媽媽 (85: 8)

⁶¹ 満洲語文語の「東」と「西」は、アルチュカ語の同源語の意味が逆である。また、筆者が調査した満洲語三家子方言と満洲語黒河方言およびシベ語の同源語の意味も意味が逆である。趙杰(1989: 90, 119)の記録によると、満洲語秦来方言の同源語の意味も逆である。

の後ろに吊るした布片」	
wargi 「西」	[wailgi] 東 (87: 12) ⁶²
watan 「釣針の先のもどり」	fətəŋ (85: 12)
we 「誰」	p'ə (86a: 14)
weihukele- 「軽んじる」 weihukelere	uixukrəz̥i (86a: 12)
weile- 「作る ; 働く」 weileci	filəŋi (86a: 13)
weji 「密林」	udi 森 (85: 6, 10, 12) [udi] 森林 (87: 12)
wejike	udiga, udi'ə 森林中居住的人 (85: 10) udixa 森林中人 (85: 13) ⁶³
wembi 「融ける」	əmei (85: 6)
wešen 「狩猟用の網」	bəz̥i 套子(打牲用的) (85: 12)
yabu- 「歩く」 yabu	jawə (85: 12)
yabumbi	jomei (85: 7, 9) jəmei (85: 13)
yabuhabi	ja'xai (86a: 14)
yabure	ja'ərə (86a: 14)
yafan 「園」	jawan (85: 12)
yali 「肉」	janli (85: 8) [jəli] (87: 9) [jali] ([p'uk'ijali] 夏季狩猟時代的食物、火燎肉) (87: 18)
yamun 「役所、官庁」	limiŋ (85: 6) [jamun] (87: 13) [limiŋ] (88b: 10)
yarha 「豹 ; 豹の皮」	[jakə] 豹 (87: 7)
yaru- 「導く」 yarume	jarun (86a: 14)
yebele- 「気に入る」 yebelerakū	ipuləwə'ə (86a: 11)
yemji 「妖怪」	[jəndi] 野鬼 (87: 17) ([məjəndi] 樹鬼) (87: 18)
yemji 「妖怪」 + hutu 「鬼」	[idihan] 山鬼 (87: 18) ⁶⁴
yoholon 「溝」	ixuləŋ (85: 6)
yoo 「腫れ物」	[jəw] (87: 13)

3. 中国語からの借用語（表 1 に含まれないもの）

dəŋmiŋ 灯 (85: 6)。中国語の「灯明」からの借用語であろう。なお、「灯」を表すアルチ

⁶² 原文では、「～人」の「固定音変詞」は、「九十人」のみ -pi で終わり、他は全て -p'i で終わる。

⁶³ 原文ではアルチュカ語の udiga, udi'ə, udixa は満洲語文語の wejike に対応すると主張している。この wejike は weji 「林」の派生語と考えられるが、wejike という語形は羽田(1937)や福田(2008)などの満洲語文語辞典には見られない。穆曄駿(1987: 14)によると、wejike の ke は、古代のアジアの言語で人間に対する泛称を表す接辞である。『女真訳語』乙種本には「兀的厄」(Kiyose 1977: 100 は *udige と再建)があり、意味は「野」である。1413 年の「永宁寺碑」の女真語には UDIyen がある(Pevnov 2012: 59; Hölzl 2018: 121)。なお、ウデヘという民族名も、満洲語文語の weji と同源語である(Perekhval'skaya & Janhunen 2024: 326)。

⁶⁴ アルチュカ語の [idihan] とバラ語の [dihən] は意味が同様であり(穆曄駿 1987: 18)、形式も類似しているため、同源語の可能性が高い。穆曄駿(1987: 19; 1988a: 11)によると、バラ語の [dihən] は満洲語の yemji + hutu と語源的に関係がある。

ユカ語の語は、他に [dəŋ ʃan] (87: 24)があり、中国語の「灯盞」からの借用語である(上表の dengjan を参照されたい)。「蠟燭」を表す語は [aʃan dəŋ] (87: 24) であり、[dəŋ] の部分は中国語の「灯」からの借用語である(上表の ayan dengjan を参照されたい)。

[ləvəɣua] 倭瓜 (87: 23)。中国語の一部の方言では「かぼちゃ」を「倭瓜」という。また、地域によっては「老倭瓜」の言い方もある。したがって、アルチュカ語の [ləvəɣua] 「かぼちゃ」は中国語からの借用語である可能性がある。なお、満洲語文語の langgū 「かぼちゃ」(およびシベ語 /laŋu/ [laŋu:]) も中国語からの借用語であり、中国語の「南瓜」からの借用語である(戈思明 2019: 122)。

[ts'uoʃi] 蓑衣 (87: 24)。中国語の「蓑衣」(suoyi)からの借用語であると考えられる。

4. 他の言語に同源語を持つ語 (表 1 に含まれないもの)

[həsuraɹmei] 説話 (87: 13)。アルチュカ語の動詞語幹 [həsura-] 「話す」は女真語の名詞 *herse 「言葉」と形式が類似しており、意味的にも関連性がある。『女真訳語』乙種本で記録された女真語の「言語」は「赫路塞伯」であり、Kiyose (1977: 139) は *hersebe と再建しており、*be は対格標識であると指摘している。Цинциус и др. (1977: 464)によると、女真語の *hersebe はエウエンキー語の əərii- 「叫ぶ」などと同源語である(風間 1997a: 54 も参照)。アルチュカ語のこの動詞語幹に満洲語文語の -ci と -cibe に相当する接辞が後続する形式はそれぞれ xəsurəʃi (86a: 11) ~ xəsurət'i (86a: 15) と xəsurəʃi mə (86a: 10) である。また、非完了連体接辞と思われる接辞が後続する形式は xəsarən (85: 10) と xəsurəʃi (86a: 11)⁶⁵ である。なお、「言葉」を意味するアルチュカ語の名詞は満洲語文語の gisun の同源語と考えられる(表 1 における gisun の項を参照されたい)。

mamu 江 (85: 6)。ナーナイ語文語の мангбо 「川」とウデヘ語の maŋmu 「アムール川、ウスリ川または松花江」に対応する(池上 1999b[1993]: 335)。また、満洲語文語の manju と同源である可能性がある(Ikegami 1989b; Hölzl 2022: 199)。

p'ila 蘭 (85: 7)。原文の「蘭」は「青い(blue)」の意味である。現在では普通「藍」の漢字を用いる。この語は満洲語の三家子方言・泰来方言・黒河方言に同源語がある。三家子方言の「青い」は、筆者が調査した話者の発音は [p'iolan] ~ [p'iaulan] であり、他の研究者の記録は piao lan (金啓琮 1981: 63)、p'iaulan (季永海ほか 1989: 115)、piul'an (清格爾泰 1998[1982]: 255, 302)、piaulan, piulan (恩和巴圖 1995: 309)、pjolan [p'jo'lan] (Kim et al. 2008: 92) などである。泰来方言の「青い」は p'iolan, p'iolan (趙杰 1989: 12, 168) である。黒河方言の「青い」は、筆者が調査した話者の発音は [p'ila] ~ [p'ilan] であり、他の研究者の記録は p'yolang (河野 1979[1944]: 546)、pilan, pelan (王慶丰 2005: 166) などである。

saŋə 熊 (86a: 11)。Hölzl (2018: 129)によると、この語は Nikolaeva and Tolskaya (2001) が記録したウデヘ語南部方言の songo (9 頁など) と soŋo (485 頁など)⁶⁶ と、穆曄駿(1986a: 4) が記録した中国のキャッカ語(Chinese Kyakala)の saŋkə tərɪn 「黒熊頭」の saŋkə 「黒熊」と同源

⁶⁵ Hölzl (2017: 101-102)によると、アルチュカ語の非完了連体接辞 -z̄i は満洲語文語の bisi-re の si およびエウエンキー語の bi-si-n の -si と同源である。アルチュカ語の非完了連体接辞 -z̄i の例は xəsurəʃi (86a: 11) の他に、k'aruraʃi (86a: 14)、uixukrəʃi (86a: 12)、wak'laʃi (86a: 10) の例もある。

⁶⁶ なお、Цинциус и др. (1977: 111)には、ウデヘ語の songo 「熊の肉」がある。

語である。

[tʰiŋkʰə] 嘎牙子魚 (87: 17)。バラ語の同じ意味の **[tʰiŋʰigə]** (87: 13) と同源語であると考えられる。

tsʰamaŋi 霜 (85: 6)。この語は女真語の **semagi* ~ **saimagi* の同源語であると考えられる。『女真訳語』乙種本で記録された女真語の「霜」は「塞馬吉」であり、Ligeti (1961: 12) と Kiyose (1977: 97) はそれぞれ **semagi* と **saimagi* と再建している。なお、Цинциус и др. (1977: 62-63) があげたエウエンキー語の *saŋiksa* 「霜」なども参照。

[ʃɔnin] 左 (87: 12)。『女真訳語』乙種本で記録された女真語の「左」という意味を表す語は「左」であり、Kiyose (1977: 130) は **jo* と再建している⁶⁷。アルチュカ語の **[ʃɔn]** 「左」と女真語の **jo* 「左」は同源語である可能性がある。Kiyose (1977: 130) は女真語の **jo* は漢語からの借用語であると指摘している。また、バラ語の **[ʃɔn]** 「左」(穆曄駿 1987: 12) もアルチュカ語の **[ʃɔnin]** の同源語であると考えられる。なお、内蒙古大学蒙古学研究院蒙古語文研究所 (1999: 1323) によると、モンゴル語の *jegün* [dʒu:n] は「東」と「左」の意味がある。アルチュカ語の **[ʃɔnin]** 「左」はモンゴル語の *jegün* [dʒu:n] 「東；左」からの借用語である可能性もある。アルチュカ語にはモンゴル語からの借用語は他にも存在する。例えば、穆曄駿 (1987: 7) が記録した **[tʰəgəmei]** 「馬車を御する」の語幹 **[tʰəgə-]** は、満洲語文語の *tergeci* 「車夫」の語基 *terge-* と同じように、モンゴル語の *terge* [tərəg] からの借用語であると考えられる。また、穆曄駿 (1985: 10) が記録した **ʃʷiri** 「顔色」は、満洲語文語の *cira* 「顔色」と同じように、モンゴル語の *čirai* [ʃæræ:] からの借用語であると考えられる。

5. 語源が不明な語

[kʰuidə mɔɔ] 花曲柳 (87: 9)。原文ではアルチュカ語の **[kʰuidə mɔɔ]** 「花曲柳」は満洲語文語の *kūthūn moo* に対応すると主張しているが、*kūthūn moo* は羽田 (1937) や福田 (2008) などの満洲語文語辞典には見られない。**[mɔɔ]** は満洲語文語の *moo* の同源語であるが、**[kʰuidə]** の部分の語源は不明である。

[magəli] 青草 (87: 17)。原文ではアルチュカ語の **[magəli]** 「青草」は満洲語文語の *niyanciha* に対応すると主張しているが、両者が同源語であるか否かは再考する必要があると考えられる。また、関雲路 (私信) によると、満洲語文語の *mager* 「一種野草」(胡增益 2020: 828 収録) と同源語である可能性がある。Sulfa (私信) によると、満洲語文語の *mager* は『御製清文鑑』の *šanggiyan selbete* の説明文にあり、モンゴル語の *meker* に由来する可能性がある。

[manali] 蜻蜓 (87: 18)。

mupi 依仗 (86a: 15)。原文ではアルチュカ語の *mupi* は満洲語文語の *ertufi* に対応すると主張している。アルチュカ語の *mupi* の *-pi* は満洲語文語の *-fi* と同じ接辞と考えられるが、語幹の *mu-* の語源は不明である。

naŋgu 牛車 (85: 8)。

pidu 禿子 (85: 8)。満洲語文語の *hoto* 「禿げ」と同源語である可能性があるが、再考する

⁶⁷ 一方、『女真訳語』丙種本で記録された女真語の「左」は「哈速」であり、Kane (1989: 370) は **has[h]u* と再建している。この **has[h]u* は満洲語文語の *hashū* と同源語であると考えられる。

必要があると考えられる。

[senmuħə] 大螞蜂 (87: 9)。原文ではアルチュカ語の [senmuħə]「大螞蜂」は満洲語文語の suilan に対応すると主張しているが、両者が同源語であるか否かは再考する必要があると考えられる。

[suk‘əndi] 水怪 (87: 18)。

[eigəməw] 胡枝子 (87: 13)。原文ではアルチュカ語の [eigəməw] は満洲語文語の singgeri moo に対応すると主張しているが、singgeri moo は羽田(1937)や福田(2008)などの満洲語文語辞典には見られない。[məw] は満洲語文語の moo の同源語であるが、[eigə] の部分の語源は不明である。

[tʃ‘ijī] 地耳菜 (87: 17)。

xosi 鬼 (85: 7)。アルチュカ語の「鬼」は xosi の他に gutu (85: 7) と [hut‘uŋ] (87: 9) もある。gutu と [hut‘uŋ] は満洲語文語の hutu「鬼」の同源語であるが、xosi の語源は不明である。

参考文献

- Alonso de la Fuente, José Andrés (2010/2011) Written Manchu *uju* ‘head’. *Ural-Altaische Jahrbücher, Neue Folge* 24: 204-226.
- Alonso de la Fuente, José Andrés (2017) From converb to classifier? On the etymology of Literary Manchu *nofi*. In: Michal Németh, Barbara Podolak & Mateusz Urban (eds) *Essays in the History of Languages and Linguistics Dedicated to Marek Stachowki on the Occasion of His 60th Birthday*, 57-80. Kraków: Księgarnia Akademicka.
- Benzing, Johannes (1956) *Die tungusischen Sprachen: Versuch einer vergleichenden Grammatik*. Wiesbaden: Franz Steiner Verlag.
- 長山・熊南京(2010)「満語口語 *dərgi*、*wərgi* 来源探析」『満語研究』 51: 28-30.
- Perekhvalskaya, Elena & Juha Janhunen (2024) *Udihe*. In: Alexander Vovin, José Andrés Alonso de la Fuente & Juha Janhunen (eds.) *The Tungusic languages*, 206-233. Abingdon: Routledge.
- 恩和巴图(1995)『満語口語研究』呼和浩特：内蒙古人民出版社。
- 福田昆之(2008)『増訂満洲語文語辞典』横浜：FLL.
- Gabelentz, Hans Colon von der (1864) Beiträge zur mandschuischen Conjugationslehre. *Zeitschrift der Deutschen Morgenländischen Gesellschaft* 18(1/2): 202-219.
- 戈思明(2019)『滿文的傳承：新疆錫伯族』臺北：秀威資訊科技股份有限公司。
- 羽田亨(1937)『満和辞典』京都：京都帝國大學滿蒙古調査會。
- Hauer, Erich (2007) *Handwörterbuch der Mandschusprache, 2., durchgesehene und erweiterte Auflage herausgegeben von Oliver Corff*. Wiesbaden: Harrassowitz.
- 早田輝洋(1988)「満洲語文語における或る単語の単数と複数について—『満文金瓶梅』の *asihan* と *asihata*—」『九大言語学研究室報告』 9: 1-18.
- 『赫哲族簡史』編写組(1984)『赫哲族簡史』哈爾濱：黑龍江人民出版社。
- Hölzl, Andreas (2017) New evidence on Para-Mongolic numerals. *Journal de la Société Finno-Ougrienne* 96. 97-113.
- Hölzl, Andreas (2018) Udi, Udihe, and the language(s) of the Kyakala. *International Journal of*

- Diachronic Linguistics and Linguistic Reconstruction* 15: 111-146.
- Hölzl, Andreas (2020a) Language obsolescence in retrospect: the case of Alchuka. Paper presented at the First Conference on the Endangered Languages of East Asia (CELEA 1), 2020.09.02-03, Venice.
- Hölzl, Andreas (2020b) Bala (China): language snapshot. *Language Documentation and Description* 19: 162-170.
- Hölzl, Andreas (2022) The etymology of “Manchu”: A critical evaluation of the riverside hypothesis. *International Journal of Eurasian Linguistics* 4(2): 160-208.
- Hölzl, Andreas & Yadi Hölzl (2019) A wedding ceremony of the Kyakala in China: Language and ritual. *International Journal of Diachronic Linguistics and Linguistic Reconstruction* 16: 87-144.
- 胡增益(1994)『新滿漢大詞典』烏魯木齊：新疆人民出版社。
- 胡增益(2020)『新滿漢大詞典(第2版)』北京：商務印書館。
- 黃錫惠(2010)「“哈爾濱”地名考釈」『滿語研究』50: 5-24.
- Janhunen, Juha (2012) The expansion of Tungusic as an ethnic and linguistic process. In: Andrej L. Malchukov & Lindsay J. Whaley (eds.) *Recent advances in Tungusic linguistics*. 5-16. Wiesbaden: Harrassowitz.
- Ikegami, Jiro (1974) Versuch einer Klassifikation der tungusischen Sprachen. In: Georg Hazai & Peter Zieme (eds.) *Sprache, Geschichte und Kultur der Altaischen Völker*, 271-272. Berlin: Akademie Verlag.
- 池上二良(1989a)「ツングース諸語」亀井孝・河野六郎・千野栄一(編著)『言語学大辞典 世界言語編(中)』1058-1083. 東京：三省堂。
- Ikegami, Jiro (1989b) The Lower Amur and Sungari Basins from the viewpoint of toponymy and ethnonymy. In: Giovanni Stary (ed.) *Proceedings of the XXVIII Permanent International Altaistic Conference*, 123-129. Wiesbaden: Otto Harrassowitz.
- 池上二良(1992)「關於阿勒楚喀滿語的調查研究」『北京國際滿學研討會論文集』402-403. 北京：民族出版社。
- 池上二良(1999a[1994])「滿洲語文語の正書法の沿革—特に o, u, ū について—」『滿洲語研究』226-241. 東京：汲古書院。
- 池上二良(1999b[1993])「滿洲語方言研究における穆曄駿氏採集資料について」『滿洲語研究』321-343. 東京：汲古書院。
- 季永海(1985)「論滿語中的漢語借詞」『滿語研究』1: 22-27, 47.
- 季永海・劉景憲・屈六生(1989)『現代滿語八百句』北京：民族出版社。
- 金啓琮(1981)『滿族的歷史与生活—三家子屯調查報告』哈爾濱：黑龍江人民出版社。
- Kane, Daniel (1989) *The Sino-Jurchen vocabulary of the Bureau of Interpreters*. Bloomington: Indiana University, Research Institute for Inner Asian Studies.
- 河内良弘(2021)『滿洲語辞典 改訂増補版』東京：松香堂書店。
- 風間伸次郎(1997a)「ツングース諸語における基礎語彙 A (名詞編)」『알타이학보』7: 11-62.
- 風間伸次郎(1997b)「ツングース語の方位名称について」『北海道立北方民族博物館研究紀要』6: 113-124.

- Kim, Juwon, Dongho Ko, D. O. Chaoke, Youfeng Han, Lianyu Piao & B. V. Boldyrev (2008) *Materials of spoken Manchu*. Seoul: Seoul National University Press.
- Kiyose, Gisaburo Norikura (1977) *A study of the Jurchen language and script: Reconstruction and decipherment*. Kyoto: Horitsubunkasha.
- 児倉徳和(2018)『シベ語のモダリティの研究』東京：勉誠出版.
- 河野六郎(1979[1944])「滿洲國黑河地方に於ける滿洲語の一特色」『河野六郎著作集 第1巻』537-556. 東京：平凡社.
- Ligeti, Louis (1961) Les inscriptions djurtchen de Tyr: La formmule *Oṃ maṇi padme hūṃ*. *Acta Orientalia Academiae Scientiarum Hungaricae* 12: 5-26.
- 凌純聲(1934)『松花江下游的赫哲族』南京：國立中央研究院歷史語言研究所.
- 劉忠波(1981)『赫哲人』北京：民族出版社.
- 宮吉秀雄・川上行藏(1940)「滿洲に於ける乾燥菌蕈類のヴィタミン類含有量に就て」『日本農芸化学会誌』16(1): 1098-1100.
- 穆爾察安布隆阿・穆爾察依凌阿⁶⁸(1983)「浅談『恰喀拉合魯歌』」『黑龍江民間文学第9集』145-153. 哈爾濱：中国民間文芸研究会黑龍江分会.
- 穆爾察晔駿・馬文業(1983)「恰喀拉人民俗」『黑龍江民間文学第8集』191-209. 哈爾濱：中国民間文芸研究会黑龍江分会.
- 穆爾察晔駿・馬文業(2018)「勇敢的巴盧斯・烏魯」谷長春(主編)『滿族口頭遺産傳統説部叢書 恰喀拉人的故事 小莫爾根軼聞』83-90. 吉林：吉林人民出版社.
- 穆晔駿(1984)「吉祥如意的山一張広才岭」『黑龍江文物叢刊』1984(1): 97.
- 穆晔駿(1985)「阿勒楚喀滿語語音簡論」『滿語研究』1: 5-15.
- 穆晔駿(1986a)「阿勒楚喀滿語的数詞与格助詞」『滿語研究』2: 2-18.
- 穆晔駿(1986b)「拉林滿語語音概論」『滿語研究』3: 2-30.
- 穆晔駿(1987)「巴拉語」『滿語研究』5: 2-31, 128.
- 穆晔駿(1988a)「論巴拉語的語音变化」『滿語研究』6: 1-26, 93.
- 穆晔駿(1988b)「阿勒楚喀滿語元音發声的音变特点」『滿語研究』7: 1-24.
- 穆晔駿・孟慧英(1986)「恰喀拉人的故事」王士媛(編)『黑龍江民間文学第19集』1-103. 哈爾濱：中国民間文芸研究会黑龍江分会.
- 内蒙古大学蒙古学研究院蒙古語文研究所(1999)『蒙漢詞典(增訂本)』呼和浩特：内蒙古大学出版社.
- Nikolaeva, Irina & Maria Tolskaya (2001) *A grammar of Udihe*. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Nikolaeva, Irina, Elena Perekhvalskaya & Maria Tolskaya (2002) *Udeghe (Udihe) folk tales*. Wiesbaden: Harrassowitz.
- Norman, Jerry (2013) *A comprehensive Manchu-English dictionary*. Cambridge (Massachusetts) and London: Harvard University Asia Center.

⁶⁸ 「穆爾察安布隆阿」と「穆爾察依凌阿」は原文ではそれぞれ「穆尔察・安布隆阿」と「穆尔察・依凌阿」である。また、「穆爾察晔駿・馬文業(1983)」と「穆爾察晔駿・馬文業(2018)」にある「穆爾察晔駿」は原文では「穆尔察・晔駿」である。「穆尔察・晔駿」と「穆晔駿」は同一人物である(Hölzl 2018: 117)が、「穆尔察・安布隆阿」と「穆晔駿」は同一人物であるかは不明である(Hölzl & Hölzl 2019: 89)。

- Оненко, Сулунгу Николаевич (1980) *Нанайско-русский словарь*. Москва: Издательство «Русский язык».
- Pevnov, Alexander M. (2012) On some archaic features of the Jurchen language. *Hoppō Jinbun Kenkyū* 5: 57-69.
- 清格爾泰(1998[1982])「滿洲語口語語音」『清格爾泰民族研究文集』232-355. 北京：民族出版社.
- Schmidt, Peter (1933) Chinesische Elemente im Mandschu. Mit Wörterverzeichnis (Fortsetzung und Schluss). *Asia Major* 8: 353-436.
- 竹越孝(2022)「五卷本『庸言知旨』校注(17)」『KOTONOHA』234: 9-21.
- 田村實造・今西春秋・佐藤長(1966-1968)『五體清文鑑譯解』京都：京都大學文學部内陸アジア研究所.
- Цинциус, Вера Ивановна, В. А. Горцевская, В. Д. Колесникова, О. А. Константинова, К. А. Новикова, Т. И. Петрова & Т. Г. Бугаева (1975) *Сравнительный словарь Тунгусо-Маньчжурских языков: Материалы к этимологическому словарю. Том I. А-Н*. Ленинград: Наука.
- Цинциус, Вера Ивановна, В. А. Горцевская, В. Д. Колесникова, О. А. Константинова, К. А. Новикова, Т. И. Петрова & Т. Г. Бугаева (1977) *Сравнительный Словарь Тунгусо-Маньчжурских Языков: Материалы к этимологическому словарю. Том II. О-Э*. Ленинград: Наука.
- 和田景子(2013)『『漢清文鑑』における滿洲語のハングル表記—特に滿洲語の文字連続 CVwV を中心に—』寺村政男(編)『大東文化大学日本語学科 20 周年記念論文集』244-255. 大東文化大学日本語学科.
- 王慶丰(2005)『滿語研究』北京：民族出版社.
- 李基文(1973)「十八世紀의 滿洲語 方言 資料」『진단학보』36: 100-132.
- 趙杰(1989)『現代滿語研究』北京：民族出版社.

An Alchuka Vocabulary:
Written Manchu Index to the Fieldwork Data Collected by Yejun Mu

Haibo WANG
(Lingnan Normal University)

Keywords: Alchuka, Written Manchu, cognate

This paper provides a Written Manchu index for the fieldwork data on the Alchuka language collected by Yejun Mu. The Alchuka words in Yejun Mu's research are scattered across several papers, and different forms of a single word are often recorded in separate papers. As a result, important examples are occasionally overlooked when conducting research on the Alchuka language. This paper aims to systematically organize the Alchuka vocabulary documented by Yejun Mu, based on the cognates in Written Manchu.

(おう・かいほ boljon@163.com)